vol.39 mar. 2023

拓海

「海」を切り開く匠の業と心

CONTENTS

2022年度 旅立ち

卒業特集

卒業生、修了生のみなさんへ 3

卒業生、修了生から在学生へ 7

卒業、修了する先輩留学生から在学生へ 13

退職の年を迎えて 14

大学院紹介 19

国際交流プログラム 22

業界で活躍しているOB・OGの方々 24

海鷹祭の紹介 26

新任教員の紹介 27

学生の課外活動報告 28

ニュース&トピックス 29

学生相談室からのお知らせ 34

お知らせ 36

CONTENTS

◆2022年度　旅立ち

■卒業特集

◎卒業生、修了生のみなさんへ

「現代の大仏建立」　井関　俊夫……❸
卒業する皆さんへ　黒瀬　光一……❹
卒業生・修了生のみなさんへ　元田　慎一……❺
ごきげんよう　田中　祐志……❺
学位取得のスキルをどう活かすか　兵藤　哲朗……❻

◎卒業生、修了生から在学生へ

本気で挑戦！　吉澤聡一朗……❼
在学生の皆さんへ　小椋ひかる……❽
在学生の皆様へ　小野田希史……❽
在学生の皆様へ　五間岩里樹……❾
人生において特殊な四年間　上原　渉……❾
「卒業・修了生から在学生へ」　山田　有紗……❿
「学び遊び動け」　山﨑　玲奈……❿
「きっかけは自由」　町田　葵……⓫
交友関係、大学ならではの体験を大切に　藤本　晴也……⓫
社会人博士のすすめ　林　光一郎……⓬

◎卒業、修了する先輩留学生から在学生へ

有意義な留学生活を過ごしましょう　賀　川……⓭

■退職の年を迎えて

羊と教養　藤　正明……⓮
「定年を迎えて」　章　菲　菲……⓮
退職の年を迎えて　塚本　達郎……⓯
「商船大から海洋大に続いた理学研究」　村山　利幸……⓯
さて合か否か？　神田　穣太……⓰
帰去来辞にかえて　鈴木　秀和……⓱
ありがとうございました　田中　祐志……⓱
大学生にとって「卒業研究」とは　根本　雅生……⓲
良き師に巡り会う　下島　公紀……⓲

■大学院紹介

海洋資源環境学専攻　戸田　勝善……⓳
海運ロジスティクス専攻　竹本　孝弘……⓴
応用環境システム学専攻　荒川　久幸……㉑

■国際交流プログラム

自分を変えたシンガポールでの充実した一か月間　松崎　愛海……㉒
OQEANOUS Plusショートターム プログラムに参加して　大日方　稜……㉒
「海外インターンシップに参加して」　大槻　亮介……㉓
海外インターンシップで学んだこと　杤木　佑未……㉓

■業界で活躍しているOB・OGの方々

大学生活の思い出　金子　浩大……㉔
学生の皆さんへ　池口　徳臣……㉕

■海鷹祭の紹介

「今年度の海鷹祭を終えて」　重村　篤希……㉖

■新任教員の紹介

海洋政策文化学部門　畠山　大……㉗

■学生の課外活動報告

硬式野球部　林　泰成……㉘
越中島写真部　志田　瑞季……㉘

■ニュース&トピックス

- 2022年度海洋工学部父母等懇談会 ……㉙
- 品川キャンパスの父母等懇談会 ……㉙
- 3年ぶりの対面実施、「海の日」記念行事を開催しました ……㉚
- 令和4年度9月期学生表彰授与式を行いました ……㉚
- 令和４年度9月期学位記・修了証書授与式を挙行しました ……㉛
- 令和４年度10月期入学式（大学院）を挙行しました ……㉛
- 障害学生支援のための研修会を開催しました ……㉜
- 令和4年度サークルリーダーシップ研修会を開催しました ……㉜
- 令和4年度朋鷹寮避難訓練及び自衛消防訓練の実施について ……㉝
- 令和4年度学長と学生との懇談会を実施しました ……㉝

■学生相談室からのお知らせ

- 学生相談室について ……㉞
- 学生相談体制について ……㉟

■お知らせ

- 就職支援体制について ……㊱
- 国立科学博物館および国立美術館の利用について……㊱
- 緊急時連絡システムについて ……㊲
- ネットワーク障害防止のための注意事項 ……㊴
- 悪質な就活商法に関する注意喚起 ……㊶
- 東京海洋大学校友会のご案内 ……㊷
- 掲示板 ……㊸

2022年度　旅立ち

卒業特集

卒業生、修了生のみなさんへ

「現代の大仏建立」

学　長
井　関　俊　夫

新型コロナウイルス感染症が世界中に広まって３年以上が経過しました。卒業生、修了生の皆さんは、学生時代の大部分あるいはほぼ全てをコロナ禍と共に過ごしました。この困難な状況を乗り越えて、卒業・修了という、一つの大きなゴールに辿りついた皆さんに、心から祝福の言葉を送りたいと思います。皆さんが巣立って行く社会は、武力紛争やそれに伴うエネルギー危機など、このところ不安定な様相を呈しています。皆さんには、予測困難な社会の中で、自分の将来像をしっかりと思い描き、着実にキャリアを積んで行って欲しいと思います。最短距離で目的地を目指すのも一つの生き方ですが、時には横道に踏み込んで、自分の知識と能力に多くの引き出しを作って欲しいと思います。それらは直面する諸問題を効果的に解決する英知となって、皆さんの強みになると思います。

話は変わりますが、昨年の 11 月に出張で奈良を訪れた際、華厳宗宗務長であり東大寺執事長の上司永照師の講演を拝聴する機会に恵まれました。講演の題目は「東大寺～奈良の大仏さまがおられる意味を考える～」でした。奈良の大仏が建立された天平時代は、政変、飢饉、地震に加え、伝染病である天然痘が蔓延し、現在の「令和」よりも過酷な時代であったと想像されます。苦境に喘ぐ人々のために、現代の病院や福祉施設に相当する「施薬院」や「悲田院」が作られましたが、重度の天然痘患者の治療という意味では無力に等しかった

たと思います。したがって、精神的な救いによって社会の不安を取り除くことの方が重要であり、聖武天皇によって大仏（廬舎那仏）が建立されました。「廬舎那仏造顕の詔」によれば、大仏建立の目的は飢饉や天然痘などの喫緊の問題解決ではなく、「動植咸榮」（動物や植物がことごとく栄えること）、すなわち人間社会を超えた、より高いレベルでの安寧だったようです。翻って、「感染の第７波が来る」、「第８波が来る」と言い

ながら、それらを阻止できない現代において、より高いレベルでの安寧とは一体何なのかという疑問も持ちました。

講演から数週間後のニュースで「生物多様性条約第 15 回締約国会議（COP15)」が開催され、「生物多様性の損失を止め、反転させ、回復軌道に乗せるための緊急な行動をとる」ことが 2030 年までの世界目標とされたこと知りました。その閉会式において、Inger Andersen 国連環境計画（UNEP）事務局長が “Actions that we take for nature are actions to reduce poverty; they are actions to achieve the sustainable development goals; they are actions to improve human health.” と述べたそうです。生物資源の持続可能な利用を目的とした国際会議ですが、「盧舎那仏造顕の詔」の「動植咸榮」と共通する部分があるように思いました。偶然の一致のようですが、考えてみれば当然の一致であるとも言えます。したがって、少々強引ではありますが、生物多様性条約や SDGs に関する取り組みは、現代の大仏建立ではないかと思いました。

SDGs を達成できれば、世界情勢は安定化の方向に向かい、武力紛争やエネルギー危機などの諸問題も自然消滅するように思われます。SDGs はまさに高いレベルでの安寧を目指していると言えます。しかしながら、大仏建立とは確実に異なる点もあります。それは、環境破壊は現在も進行中であり、人々の精神的安寧を願うだけでは全く不十分だということです。テレビコマーシャルなどを見ていると、多くの企業が積極的に SDGs 達成に取り組んでいることをアピールしています。私たちには、その定量的な効果を確かめることなく、安心で明るい未来を簡単に信じてしまう傾向があります。いわゆる「正常性バイアス」です。

東京海洋大学で勉強した皆さんの中には、SDGs の目標 14 を始めとするいくつかの目標に興味を持ち、一部には、具体的な行動をとっている人々もいます。そして、SDGs に深く関わるほど、その達成が困難であることを強く認識していることと思います。だからこそ、国際社会は人類の英知を結集させることを求めています。皆さんも社会の一員となる以上、そう遠くない未来に地球規模の重要課題に関与することになるでしょう。その時は是非、皆さんが本学で得た知識と経験に加え、これから実社会で獲得する英知を惜しみなく発揮し、地球の未来のために活躍して欲しいと思います。

卒業する皆さんへ

海洋生命科学部長
黒　瀬　光　一

皆さん、卒業おめでとうございます。思う存分、海洋大学での生活を満喫しましたか？　大学生活を振り返ってみると、いろいろなことが思い出されることでしょうね。皆さんがこれから社会に出て、日本あるいは世界で活躍していく際に、海洋大学で経験した様々なことを活かして欲しいと心より願っています。海洋大学で何を学んだか、それをこれからの人生にどう活かすか、学問だけではなく、身の処し方、人とのつながり、時には理不尽に感じるような経験をしたかもしれませんが、その全てが皆さんの財産です。私自身、振り返ってみると、学生時代に経験した様々なことがその後の人生の基盤となっているように感じます。

皆さんがこれからの人生で出会うさまざまな課題には、必ずしも正しい答えがある訳ではありませんし、答えは 1 つとは限らずいくつもある、ということの方が多いかも知れません。さあ、どうしましょう。　そのような時、海洋大学で身に付けた様々な能力や経験がきっと皆さんの力になってくれることでしょう。海洋大学では、皆さんが答えの用意されていない課題に挑み、自分の頭で考え、解決策を導き出していけるような人間に育つよう教育をしてきたつもりですし、海洋大学を卒業した皆さんはそのような人間に育っているものと確信しています。皆さんには、そのような東京海洋大学を卒業したというプライドを持って社会に羽ばたいていただきたいと願っています。

一方、皆さんの心に留めおいていただきたいことが一つあります。それは皆さんのこれからの活躍や成したことが東京海洋大学卒業生の事績として社会に刻まれていくということです。皆さんの活躍が母校である東京海洋大学の社会的な評価に結びつく、すなわち、海洋大を一流たらしめるのはこれからの皆さんの双肩にかかっているといっても過言ではないのです。そういう意味で、皆さんには今後もたゆまぬ努力を続けていただきたいと願っていますし、また、大いに期待をしています。

皆さん、ご卒業、本当におめでとう！

卒業生・修了生のみなさんへ

海洋工学部長
元　田　慎　一

卒業生のみなさん、おめでとうございます。多くの方は大学生活を終えて社会に飛び込むことになり、期待と不安が入り混じった気持ちでしょう。みなさんは特に2年間以上にわたって遠隔授業や大学への入構制限、部活の活動停止など、コロナ禍での不自由な学生生活を強いられた学年ですので、その思いはひとしおだと思います。しかし、私はみなさんが海洋大スピリットを身に付けて卒業していくので心配していません。では海洋大スピリットとは何でしょうか？　ひとつは本学の教育目標である「実学主義」を身に付けていることです。それは、３現とよばれる、現実、現物、現場を理論的・学術的に検証しつつ、最も大事なことはまずは現場に行ってカタチにするための最短・最適手法を検討するという考え方です。社会に出て業務で悩んだら、この本学で学んだ「実学主義」の考え方に立ってみて下さい。もう一つは、友人、先輩・後輩たちとの濃い交友です。部活に入らなくても様々なイベントで人との交流が可能になるのも本学のよき伝統、スピリットだと思います。さらに、もう一つ。最近では大学卒業後の3年離職率が30%を超えると言われていますが、それは単に若い人の我慢が足りないからだとは私は思いません。現在、我が国は長期の景気低迷期が続き、昨年からの物価高のため経済成長の低迷が余儀なくされています。そのために会社が若い人を教育する余裕がなく入社直後から成果を求められることも一因であると考えます。でも、これは全ての新入社員に課せられるのでみな同じですね。では違いは何でしょうか？それは気の乗らない与えられた仕事に対して如何に興味を持つことができるかどうか、であるように思います。指示されて行う仕事がいつも楽しいとは限りません。自分には合わない、仕事だから仕方ないと思って我慢していると、ストレスによって心が限界に達してしまいます。それを解消する方法は、友人と話す、お酒を飲む、趣味に没頭する、旅行に出かける、など人それぞれですが、そもそもストレスを溜めない方法はあるのでしょうか？それは何でもいいので興味を持って仕事を面白がることだと思います。卒業研究や大学院での研究が夜遅くまで何日も続けられたのは自分から興味を持って取り組める「面白い」と思える要素があったからではないでしょうか。もし会社に入って悩んだら、「実学主義」、「人との交流」、「仕事を面白がる」。これらを試してみて下さい。最後に、他大学では経験できない経験をした海洋大卒業生として誇りを持って下さい。他人に負けない、それも立派な海洋大スピリットでしょう。皆様のご活躍を心からお祈りいたします。

ごきげんよう

海洋資源環境学部長
田　中　祐　志

努力して障碍も逆境も乗り超え今日の卒業に到達した君を尊敬し祝福する。おめでとう。

この先は君等の時代だ。「時は正に若者の鉄の腕と英智に宿る」（学歌）。皆、頼む。

行方は平穏ではない。私達ヒトは *Homo sapiens*「賢い人間」という名を自らに与えてはいるがもっと賢くならねば自滅しそうだ。宇宙の塵のようなこの星に自らを含む多様な生物が共栄することがほぼ奇跡だと知った今も、棲場を毀ち他種を蔑ろにし同種内の紛争や殺戮を止めない。身近には私らの祖父母や父母も戦時に生きた人達だった。君らが生まれた頃から現在までも争いのない時はなかった。今起こっている戦もいつ終わるかさえ分からない。常時が有事だ。歴史を見れば大昔からそうだ。ヒトがもっと賢くなるまではこれが「グローバルスタンダード」なのだろう。そんな世界で諸君一人一人が与えられた役割を果たし、次代が今より良くなるようにと祈る。

斯かる不隠な世界にこの先何十年もの旅に出る（22 世紀を見る可能性もある）君に、「Powers of Ten」という動画の視聴を勧める（YouTube で視聴できる）。制作は 1977 年と古く、時間も 9 分と短いものだが、今でも刺激的だ。私は見る度、一兆分の一 mm の素粒子から百億光年の宇宙を想い、宇宙とは何か、地球とは何か、物質とは何か、肉体とは何か、生命とは何か、精神とは何か、人間とは何か、人生とは何か、進化とは何か、ヒトとは何か、自分とは何か、先祖とは何か、子孫とは何か、遺伝子とは何か、友とは何か、敵とは何か、輪廻転生、諸行無常、盛者必衰、一切皆空、・・・というようなことを、その時そ

の時の自身の年齢や境遇に応じて黙考する。生まれた時から情報が溢れる世界で育ち今やメタバースの空間に浮游する君らの心には共鳴しないかも知れない。それでも、不隠な現実に挫けそうな時に、人知及ばぬ時空間に想いを馳せさらに本当の空を見上げれば、心鎮まることもあるだろう。

大切な人生に幸多かれと祈る。ごきげんよう。

学位取得のスキルをどう活かすか

海洋科学技術研究科長
兵　藤　哲　朗

大学院を修了される皆さん、まずはおめでとうございます。この２年間は”with コロナ”への移行期でもあり、学会発表の機会なども限定されたかも知れません。その困難を乗り越えて、「博士号」「修士号」を取得された皆さんの努力に敬意を表したいと思います。

さて、「学位取得」で身につけたスキルは何だったでしょうか？　私の想像では、① Journal を始め内外の情報収集とエッセンスの抽出スキル、② Research Question に基づいた有益な仮説の設定スキル、③先端的な分析や実験のスキル、④得られた結果の図表化・文章化とプレゼンのスキル、⑤発表の場などにおけるディスカッションのスキル、などがあげられると思います。どれも重要なスキルですが、この中でも自分で自信を持ち得るスキルがあれば、それをもっと伸ばして社会で活躍して下さい。

長い低迷が続く日本経済ですが、よく「生産性の向上」という言葉がもてはやされています。定義上、これは「生産量／投入量」という割り算を意味するのですが、言葉を変えていえば、前述したスキルの向上に基づく活躍が期待されているということでしょう。さらに、その時に大事なことも付言しましょう。皆さんは博士論文や修士論文に取り掛かるとき、心理学用語で言う「フロー」（「忘我状態」）を体験されたのではないでしょうか。この「フロー」状態は、自身の能力を飛躍的に高めてくれる心理体験だと思います。仕事以外で趣味などに打ち込むときにも、「フロー」を感じることが多いと思いますが、それも能力の浮揚を育むことでしょう。

さて、博士号を取得した方は、まだまだ奥深い研究生活を継続する機会が多いと思いますし、修士号を取得された方もチャンスがあれば是非、博士号取得も目指して下さい。私は今期、50 代と 60 代の社会人博士の審査に関わりましたが、学問の探究に定年はありません。いつでも大学は皆さんを受け入れ可能です！

Bon voyage !

2022年度　旅立ち

卒業特集

卒業生、修了生から在学生へ

本気で挑戦！

海洋生命科学部 海洋生物資源学科4年
吉　澤　聡一朗

拓海に寄稿することを光栄に思います。2019年度に入学してから早4年が経ち、気が付けば卒業となりました。この4年間様々なことに本気で取り組んできましたが、ここでは特に印象に残っている部活動、海外探検隊、教育実習の3点について紹介したいと思います。

1．部活動

私は空手道部に所属していますが、4年次までこれといった結果を出すことができませんでした。練習は継続していましたが、途中モチベーションがなくなったことがありました。しかし、ふとしたきっかけで練習が楽しくなり、引退前最後の大会で入賞することができました。このときの達成感はひとしおでした。

2．海外探検隊

1年次の夏にシンガポール隊として参加しました。英語は話せないし海外にも行ったことのない中で1ヶ月間シンガポールに滞在したことは大きな挑戦であったと思います。1年次に海外探検隊に参加したことは本当に良かったと思っていて、これに参加していなければ今の大学生活はないと思っています。ここでは苦い経験もしており、この先忘れないと思います。

3．教育実習

私はもともと理科のみを取る予定でしたが、水産科も楽しそうだと思い、理科と水産科の両方を取ることにしました。教育実習先も母校に行こうと思っていましたが、知り合いの先生がいない方が面白そうだったため水産高校にしました。正直、実習の2週間がこれまでの教職課程の科目の中で一番大変でしたが、実習先の優しい先生方と生徒さんたちに支えられ、終えてみると学びの多い2週間でした。水産高校はおすすめです。

長くなってしまいましたが、在学生の皆さんにはコスパの良し悪しにとらわれず様々なことに本気で挑戦してほしいと思います。成功しても失敗しても何かしら得られるものはあるはずです。心身の健康に気を付けながら充実したキャンパスライフをお過ごしください。

空手道部の大会にて

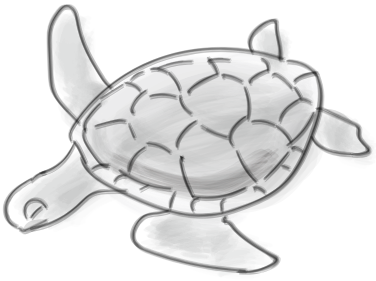
在学生の皆さんへ

海洋生命科学部　食品生産科学科4年
小　椋　ひかる

4年前、食品の製造に興味を持っていた私は食品生産科学科へ進学しました。正直、海への興味は薄く、海洋生物とは無縁の生活を送っていました。そのため、入学した直後は他学科の人から「好きな魚は何?」「魚とか飼ってる?」といった質問をされる度に戸惑っていましたが、そんな私も魚を捌くことができるようになりました。食品学科の科目だけでなく、他学科の海洋生物や魚食に関する科目もぜひ履修してみてください。私のような人はきっと、新しい扉が開いてわくわくするはずです。

大学生活を送る上でもうひとつ、私が皆さんにおススメしたいことは「興味のあることにはとにかく挑戦してみる」ということです。コロナ禍で思うように動けなかった大学生活でしたが、部活動、海外探検隊の事前学習やその活動を通して知り合った人たちから大きな刺激を受けました。ですが、もう少し大学の勉強以外にもっと語学の勉強をしておけばよかったと後悔しています。想像していたよりもずっと早く大学生活は過ぎてしまいますし、4年生になると研究室に所属して忙しくなります。それまでに自分が興味・関心のあるものを見つけ、どんどん挑戦してみることが大学生活を充実させる近道になると思います。

皆さんの大学生活が充実したものになるよう、応援しています。



在学生の皆様へ

海洋生命科学部　海洋政策文化学科4年
小野田　希　史

「やりたいことに向かって大いに楽しんで。」

高校を卒業するとき、恩師はこの言葉で私を海洋大へ送り出してくれました。あの日から4年が経とうとしています。大学生活を振り返ると、心の底から楽しいと思えた瞬間が何度もありました。一方で、自分のやりたいことはなんだろうと悩んだこともありました。

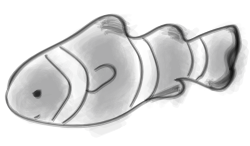
今の時代、自分が何かをやりたいと思ったとき、ネットで上手く検索すれば、同じことを志した人が必ずと言っていいほど出てきます。そして、その人がどのような行動を取り、どのような結果を得たか、知り得てしまいます。私もよくそういうことをします。そうして、時に成功を確信し、時に「これはきっと無理だ」と悟って何かに臨むのです。あるいは、上手くいかないことを予見し、端から諦めてしまうこともありました。自分がやろうとしていることがどのような結果を招くか予想することは、ますます容易になってきていると感じます。ただ、結果がどうであれ、そこに行き着くまでの過程で、思いがけない出会いや発見があり、楽しいと思える瞬間が訪れることもあります。

大学生活はあっという間に過ぎ去ってしまいます。だからこそ、失敗の少ない最短ルートを探りたくなることもあると思いますが、在学生の皆様には、結果ばかりに執着せず、自分のやりたいことを追い求めてほしいと思います。結果も大事ですが、それだけではなく、途中の過程で、楽しいことを一つでも手に入れてください。

在学生の皆様へ

海洋工学部　海事システム工学科4年
五間岩　里樹

在学生の皆様に伝えたいのは、自分次第で大学の4年間はいくらでも有意義なものにできるという可能性です。4年前の4月に入学してからあっという間に卒業目前まで来ましたが、大学生活を有意義なものにしようと自身、意識してきたにもかかわらず、やはり、後悔していることも多くあります。とくに、東京海洋大学ならではの海での実習などにおいて、もっと頑張れば良かったとも、今になって考えています。 他の大学と比べて海関連の実習が非常に多いことが東京海洋大学の特徴であり、本学でないと経験できない講義や演習も無数にあります。遠泳実習や乗船実習はもとより、一つのまとまったチームとして行動して、一つのゴールに向かって協力し合っていくといった教育機会が目白押しです。これらの実習からの学びは、卒業後どのような進路に進んだとしても、人生に役に立つスキルとなっていくと思います。実習を単位取得だけのために受け身で受講するのではなく、主体的にこなしていくことで、より大きな実習の効果を実感できるはずです。また、生活面の話になりますが、大学では中学校、高校と比べて、予想以上に体を動かす運動を行う機会が減ります。さらに、飲酒や喫煙ができるようにもなることから、親元を離れて勉強している環境で、不摂生な生活を結果として送ってしまうようになってしまっている学生も多いと思います。社会人になれば、さらに学生時代以上に、健康的な生活を送ることが難しくなるということもあるので、大学生のうちに健康に気を配った生活を心がけるという習慣を身につけることを勧めたいと思います。健康でいることが、有意義な生活を送る上での第一条件です。最後になりますが、在学生の皆様には、学生の本分である学業や実習を全力で取り組みつつ、健康を損なわない程度に余暇活動も頑張り、残りの大学生活を十分に意義のあるものにしてもらいたいと考えています。



人生において特殊な四年間

海洋工学部　海洋電子機械工学科4年
上　原　　涉

大学生のうちに最も身に付けておくべき能力とは何でしょうか？実際に社会人の方々から話を聴く限りそれは、コミュニケーション能力であると感じます。職場、学校、家庭に至るまで必ず人と接点を持つ場所が存在し、人と人との繋がりによって社会は上手く回っています。また、単に居心地の良い友人とだけ遊んでいれば良いと言う訳でもなく、あまり今まで接してこなかったタイプの人達や、自分と年齢が離れた方達とも良好な関係を築く事は将来、社会人として上手くやっていく上で非常に重要なことであると考えます。在学生の皆さんには是非、信頼できる友人や、尊敬できる先生などを見つけどんどん人脈を広げていってほしいと思います。もしかしたら、自分が困って路頭に迷った時に手を差し伸ばしてくれるかも知れません。

そして、様々な事に積極的に取り組んでください。例えば、大学では、今までのペーパーテストの様な答えが既に存在する問題を扱うだけではなく、研究活動などといった答えを自分達で探究する活動を主体的に行っていかなければなりません。何事にも全力で好奇心旺盛に物事に取り組むことで、やり甲斐を感じる瞬間に出会い、取り組む前とは違った景色を見られる事があると思います。

最後に、大学生活の「四年間」は、比較的時間に余裕があり、自分を見つめ直す事ができる特殊な時間であると思います。また、物事の考え方、価値観、人間性を育む上でとても重要な期間である事は言うまでもありません。そんな貴重な時間を最大限有効に活用し、自分の可能性をさらに広げていってほしいと思います。

乗船実習の寄港地　天橋立にて

「卒業・修了生から在学生へ」

海洋工学部　流通情報工学科4年
山　田　有　紗

新入生の皆様、入学おめでとうございます。今年の入学生の皆さんは、新型コロナウイルスの影響が大きく、新たな大学生活のスタートに向けても不安なことが多いと思います。人に接する機会が少なくなってしまっているかもしれませんが、大学に入学して困ったこと、不安なこと、わからないことは自分だけでなく、多くの人が同じように感じていることだと思います。学生同士、先輩や先生方と一緒にこれからさまざまな工夫をして、勉強も課外活動もきっと楽しめる生活が待っていると思いますので、頑張ってください!

在学生の皆様、学業や部活、友達と過ごす時間など、様々な事が制限されている中で日々工夫をしながら懸命に過ごしていると思います。みなさんの中には、思い描いていた2022年度を過ごせなくなってしまった方もいらっしゃるかと思いますが、自身の意思次第では色々なことに挑戦できる良い機会だと思います。当たり前が当たり前でなくなった今、在学生の皆さんにも新しい価値観や工夫が生まれていることと思います。普段の生活も予定通りにいかなくなっている方も多いと思いますが、この時間が皆さんの未来に繋がると思います。穏やかな日常、充実した学生生活が近いうちに戻ってくることを心から応援しています。

大学生は今しかできない経験ができる、一生の中でも特別な時期だと思います。困難に負けず、充実した最高の時間を過ごせますように、卒業生としてみなさんの活躍を祈っています。

「学び遊び動け」

海洋資源環境学部　海洋環境科学科４年
山　﨑　玲　奈

在学生の皆様、はじめまして。海洋環境科学科４年の山﨑と申します。

卒業を控えて、4年間の月日が経つのは本当にあっという間だったなと、入学式のときにいきなり歌わされた校歌にいまさらながら共感しています。

そんな短い大学生活の中で、せっかくなら海洋大でしか出来ないことにチャレンジしてほしいと思います。実習もそのうちの一つです。海洋大では実地で行う実習が多くあります。私たちの代はコロナ禍の影響を多く受け、実習を本来の形で行えなかった世代です。先輩方から実習の話を聞いて羨ましいなと思うこともあります。在学生の皆様には機会を逃さずにぜひ実習に行ってほしいです。

また、感染症の流行から３年近くの月日が経とうとしており、コロナ禍以前の学生生活を知らない方も多いと思います。今後、何の制限もなく渡航や国内旅行に行ける時が来ますが、ぜひ積極的に海外や国内旅行に行ってほしいと思います。時間に余裕がある大学生のうちに、日本とは違う文化圏での生活や、現地の人との交流を楽しんでほしいです。今後の人生で大変貴重な経験になることは間違いありません。交流ならサークルや部活に入るのも一つだと思います。他学部とも知り合えるし、共同生活できるし、ボート部結構おすすめです。

「好きなことを　好きなだけ　学べることは　倖せ者だよ　それが出来るのは　現在(いま)　現在は　すぐに過去」ですので、残りの学生生活を存分に楽しんでください。

「きっかけは自由」

海洋資源環境学部　海洋資源エネルギー学科4年
町　田　　葵

つい最近入学したような気がしたまま、あっという間に4年間が過ぎてしまいました。時間の流れが一瞬に感じるほど、大学生活が充実し非常に貴重なものであったのだと感じています。

私は幼少期に地元の海無し県にある淡水水族館でシャチのぬいぐるみを買ってもらったことがきっかけとなり、漠然と海に興味を持ち東京海洋大学に入学しました。それは雨でできた水たまりから世界中へ広がる大海原へ飛び込んだような感覚でした。また、多分野の授業内容も新たにできた友人も、カラフルな魚たちが自由に泳ぐ海中を覗いたようでした。そんな環境に囲まれながら海の中を探検し、自分の興味のあることを探しました。

私は現在、魚群探知機を用いた音響観測を研究する研究室に所属しています。研究室を選んだ当初は、研究の本筋に興味の中心があったわけではありません。自分自身が音楽や楽器演奏が好きであるため、先生がギターを弾いていらっしゃるということと音響と音楽のつながりへの興味で選択しました。しかし、所属後も研究自体が非常に興味深くのめり込んでしまい、大学院に進学し研究を続ける予定です。

分岐点で様々な選択をして歩いている道が現在地です。その選択のきっかけが、ぬいぐるみや本質には関係の無いことであってもいいと思うのです。その方が自分の予想しなかった選択肢が増え、さらに広い海へ探検していけると思います。皆様が豊かな学生生活を送れるようお祈りしております。

テナガエビ釣り（本人）

交友関係、大学ならではの体験を大切に

大学院海洋科学技術研究科　海洋生命資源科学専攻2年
藤　本　晴　也

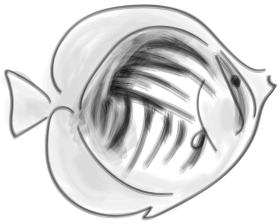
僕は釣りが好きだっただけなんや…気づいた時は5年過ぎた後でした。幼少期から川でも海でも釣りやらガサガサやらに親しみ、高校では水質や水生生物を主に調べて歩く（主に僕主体の活動において）課外環境部に所属し、魚こそ僕の興味関心を最も惹きつける研究対象だと確信して滑り止めすら受けずに一途に臨んだ入試で受かり、魚が僕を呼んでいる！とすら確信していた6年前…そう。6年が過ぎようとしています。釣りが好きな

定置網で漁獲されたクロマグロと筆者

だけだと気づいてなお、院にまで進んだ僕です。

思えば、楽しい大学生活でした。周りはみんな僕より魚に興味があり、研究にも熱心でしたが、逆に言うと海、魚が好きという点で話が合い，時間があればあちらこちらに釣り行に出かけ、僕の生家のある関西だけではおよそ釣りきれなかった豊富な魚種を釣り上げることができました。釣果にも友にも恵まれた大学生活でした。

そして院での実習。200キロ級のマグロを筆頭に多種多様な魚を漁網の中に目にする日々に、釣りの意義が揺らぐほどであったり…僕の釣り日誌はここまでにして…所属していた研究室では定置網の網目に関する研究をしました。卒業後の進路は流通関係の総合職に内定したため、実際的に定置網の知識を活用することはありません。が、実習で漁師さんと半年近く定置網船に乗船した経験は、社会人になっても必ず生かすことが出来ると思います。学生時代に学んだことが直接生かされることは稀であると思いますが、悔いの残らないよう楽しい学生生活を送ってください。



社会人博士のすすめ

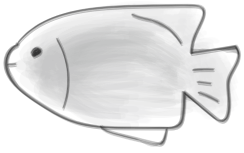
大学院海洋科学技術研究科　応用環境システム学専攻３年
林　光　一　郎

私は社会人博士として有給休暇やフレックス勤務を使いながら自分の時間で博士課程を終えました。学部や修士で社会に出る皆さんの中にも「少し博士が気になるな」という方がいるのではないでしょうか。この記事ではそういった方々のご参考になる話をできればと思います。

博士課程で求められるのは論文を査読誌に掲載して自分が独立して研究を行える研究者だと証明することです。そのために必要なのは自分の研究を論文に落とし込むこと、具体的には学術的な作法に乗っ取り、新規性･重要性を持たせ、その一方で大風呂敷を広げすぎないこと、などになります。

社会人になった後に自分の仕事をこのような観点で見つめ直す姿勢を持ち続けていれば、どこかの時点で自分の仕事で査読論文が書けるのでは、その論文を核に博士論文を作成できるのでは、と感じるかもしれません。そうなることを想定して緩やかにでも学術界との繋がりを保ち、時が来た、と感じたら母校の門を叩くことをお勧めします。博士課程では授業に出て試験に合格するための「勉強」のウェイトは高くありません(個人的にはもっと多くの授業を受けたかったと心残りですが…)。論文を書くためにいつ時間を割くかは自分でコントロールできます。

職業人として博士号を持つことの価値は、世界に出ようとする人ならもちろん日本国内でも今後高まっていきます。多くの人が将来社会人博士にチャレンジすることを期待します。



2022年度　旅立ち

卒業特集

卒業、修了する 先輩留学生から在学生へ

有意義な留学生活を過ごしましょう

大学院海洋科学技術研究科　食機能保全科学専攻2年
賀　川

留学生の皆さん、初春に相応しく穏やかな天気が続いておりますが、いかがお過しでしょうか。世界各地に振っている新型コロナですが、一旦は収束の傾向にありましたが、再び拡大の傾向となってまいりました。不安を抱いてダラダラと過ごすより、どうせなら楽しく有意義な留学生活を送りたいですよね。そこで修士課程を含めて2年程を留学生として過ごした私から、いくつかアドバイスをさせていただきたいと思います。

まず、皆さんも時間の流れが早く感じられますよね。無駄に過ごさないために、留学の目的とか将来の計画をしっかり把握して、スケジューリングをすることがとても重要です。小さな目標なり大きな目標なりを立てて、一つずつクリアしていくことにしましょう。それを積み重ねていくと、自分自身でも驚くほど成長した自分に気づくことができます。

また、学生生活をフルに活用しましょう。大学は勉強をする場ですが、専攻知識だけではなく、語彙力を身につけて上達になる場でもあります。オンライン授業により人と人の関わりが希薄になっている状況が続いていますが、対面の授業も再開してきましたので、周りの人と関わって話しをしましょう。相手は先生でもクラスメイトでも誰でも構いません。留学中はとにかく話して自分を表現することが重要です。

最後に、留学生活を有意義にするためには一つでも何かに興味を持って積極的に行動しましょう。例えば、私の場合はあっちこっちへ旅行することが大好きです。旅行というのは、多くの文化を感じられ、多くの人々に出会え、今まで知らなかった世界を拓ける最高のチャンスだと思います。

異国での生活を有意義的に過ごすのは簡単な事では無いですが、そのためにも自分から努力することは大切です。皆さん、一緒に頑張っていきましょう。引き続き感染対策もとりながら、皆さんにとって最高な思い出ができる留学生活となりますように応援します。

退職の年を迎えて

退職なさる教職員の方々より一言

羊と教養

海事システム工学部門　教授
藤　　正　明

東京商船大学に着任した年は1999年だが、まだ国立大学の良さが残っていた。その後、大学統合と法人化があった。これを機に露骨なマネー主義が幅を利かせるようになり、教養教育の衰退が始まった。誰が悪いというわけではない。これは戦後日本が受け入れざるを得なかった統治システムの帰結だったのではないか。東北大学全学教育広報『曙光』第41号（2016年刊行）に、川島隆太氏の以下のような文章が載っている。「十数年前、名は伏すが、偶然、一人の旧帝国大学名誉教授と懇談する機会を得た。その方は、戦後、GHQと共に日本の新しい教育システムを構築することに携わってきたと言っていた。そして、『私たちが目指した我が国の教育の目標は、90%の国民が物言わぬ羊となることである。それが治安の観点からは安定性に優れ、経済の観点からは最も効率の良い社会を作ることに繋がる。見たまえ、私たちの壮大な社会実験は見事に成功を収めた』と、我が耳を疑う言葉を吐いた」。大手マスコミがあらかじめ取捨選択した「常識」を無批判に受け入れる物言わぬ羊たち、これが現代日本人の姿なのだろう。教養教育の衰退もこの文脈で理解できる。教養ほど羊に似合わないものはない。大学の存在意義は、世間に流布している誤った「常識」を批判し、それに代わる新たな常識を創造することだと考えられる。大学人までもが物言わぬ羊になってしまえば、日本に未来はない。これを自戒の言葉としたい。

「定年を迎えて」

海洋電子機械工学部門　教授
章　菲　菲

私は東京商船大学に赴任したのは1990年6月の初め、当時舶用制御学科の制御設計研究室です。その年の3月に博士課程を修了したばかりの私を温かく迎えてくれたのは研究室の大勢の人々、ボスの森下先生を始め、河野先生、濱田先生、三嶋助手、、、と研究室所属の学生、留学生達でした。その日から今まで、私はこの研究室で制御理論を研究し、制御工学の授業、実験の教職に勤め、卒業研究、修士、博士論文の指導をしてまいりました。一言、とても楽しい職場で、幸せな日々を過ごさせて頂きました。

日本の職場では女性がお茶くみをさせられると当時の噂を聞いていましたが、私が赴任してから3年間は、ただひたすら自分の勉強や、研究に没頭しました。助手であるため、授業、会議は一切なく、教授たちの仕事の手助けも他の助手や技官が担っていたので、私はどちらかというと、学生生活の延長でした。そのお蔭で、私は制御理論の各分野の専門書を熟読することができました。東京駅の八重洲ブックセンターによく立ち読みに通ったものです。

当時、女性の教員はまだ少なく、記憶の中に私以外、英語と法律の先生がおられました。いまは女性の教員も増えましたが、女性ならではの経験はとても貴重です。二つのエポソードを紹介します。一つは、授業を担当し始めたその年、私は子供を妊娠しました。授業開講一番、

私は学生に“お腹に子供がいますので、これからだんだん太くなるから、ビックリしないで”と言いました。すると3秒沈黙のあと、なんと学生全員が私に大きな拍手をくれました。当時の感動は今でも鮮明に覚えています。もう一つは、わりと最近の話です。あるとき、一人3年生の学生が私に何を言ったと思いますか?彼は真面目な顔して、“章先生は海洋大の母です”と言ってくれました。私は即座に“ありがとう”と答えました。なんと、私は遂に大勢の子供を持つことになったわけです。とても名誉なことで、素直に嬉しく思っています。

大学の教員は研究と教育の両方をバランスよくこなせることはなかなか難しく、その上、学生の生活指導も入ると、どうしたらいいかと思う時もあります。しかし、船員やエンジニアの卵を育てることは、知識の伝達だけでなく、人間一人一人の成長に関わることで、これが本当の教育だと言えます。学生も教職員も参加するカッターレース、海王祭、新入生オリエンテーションの合宿、汐路丸の実験航海、ゼミ旅行、研究室の飲み会、などなど、一つ一つの年間行事は仕事の一部とはいえ、自分の生活も豊かにしてくれました。夜にジョギングで相生橋を通ったとき、カッター部の練習に遭遇し、遠く彼らに手を振ったら、懐中電灯で返事をくれたこともありました。思い出せば切りはありません。

このように、幸せに浸ったあっという間の30数年でした。最後に、この場をお借りして、お世話になった皆様に厚く御礼を申し上げます。

● ● ●

退職の年を迎えて

海洋電子機械工学部門　教授
塚　本　達　郎

大学院の博士課程を修了後、東北大学に助手として3年ほど勤務し、平成3年4月に東京商船大学の内燃機関工学研究室に講師として着任しました。あれから32年が経ち、退職の年を迎えました。皆様のおかげで、無事ここまでたどり着くことができましたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。本学に着任当初は、船舶のことは全く知らなかった私でしたが、共同研究の縁で、呉からシンガポールまで7日間、新造船の原油タンカーに乗せていただく機会があり、さらに富浦での帆走実習に参加することもできました。また今はなくなってしまいましたが、何度か早朝カッター訓練に参加することができ、短艇実習を担当することもできました。それぞれがとても良い思い出となっています。私が専門としてきたディーゼル機関は、大気汚染物質の削減と熱効率の向上が大きな課題でしたが、最近では温室効果ガスの削減という話から一気に排出ゼロという流れになっています。とはいえ燃焼や内燃機関（ディーゼル機関）が、そう簡単に使われなくなるとは考えられず、まだ何十年かは使われ続けるでしょう。ただ、そこで使用される燃料や動力システムは、様々なものが出現しつつあり、多様化が進んでいます。学生諸君には、様々な状況に対応することができるよう、特に基礎的な分野についてしっかりと学んで実力を身につけてもらいたいと思います。再雇用であと2年間は、大学におりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

● ● ●

「商船大から海洋大に続いた理学研究」

海洋電子機械工学部門　教授
村　山　利　幸

1987年4月に東京商船大学に助手として採用された。研究は和光市の理化学研究所サイクロトロン研究所でレーザー核分光という新しい分野に従事した。教育では物理学実験を担当し、物理学実験のテキストを作成した。その頃の楽しい思い出は職員テニス部でテニスをしたことである。山田科学振興財団の長期派遣援助を得て、フランス・パリ郊外にあるCNRS・Amié cottonに1990年9月から1年半滞在し、ジュネーブCERNに設置するための日本製半導体レーザーを用いた原子線磁気共鳴装置の開発・実証実験を行った。当時、何か物理学を活かした本学で出来、かつ社会に係わる研究をしたいと模索していた。帰国後、ほどなく学内予算が通り、レーザーレーダー（ライダー）を用いた大気科学の研究を学内で始動した。最初に望遠鏡で雲からのレーザー後方散乱光を見たのは、1993年5月6日であった。それは私のファーストライトと言える。その後、レーザー光の偏光を利用した対流圏エアロゾルの観測を行った。新2号館（現在の2号館）が1995年2月に竣工され、4mの天体ドームが新2号館屋上に取り付けられ、ライダー観測に用いた。1997年春季から自ら提唱して黄砂のラ

イダーネットワーク観測を展開した。それは、その後海外や他分野の研究者を含めた壮大な研究グループAD-Net (Asian Dust Network)となった。文部省の派遣で1997年10月からの3か月間で先端的ライダー研究に係わる4か国13機関の大学・研究所を廻り、世界一周した。これらの訪問は、その後の共同研究にとても役立った。2001年春季にアメリカ主導で大規模な国際野外観測実験ACE-Asiaが、東アジアで増大するエアロゾルの気候変動影響を調べるため行われた。2001年4月22日（日）NSFのリーダーからのFAXが自宅に届き、翌日の航空機観測との同時観測に間に合った。このときの成果は総勢23名の共著論文となった。ライダー装置はその後、3波長ミー・偏光・ラマンと機能を拡張し、理論解析によってエアロゾルの微物量が導けるまでになっていた。丁度、2003年5月に大規模なシベリア森林火災があり、東京上空でも観測していた。国際共同研究により、煙粒子の有効半径や屈折率を導出し2004年に共著論文を発表した。第52次南極地域観測隊員として2010年11月11日から2011年3月20日まで主にしらせに滞在しながら行動した。その間、一度も船酔いをすることがなかった。シーロメーター（雲底計）をしらせに搭載して直上の雲・エアロゾルの高度・鉛直分布を連続的に測るのが目的であった。2005年からは同様にシーロメーターを観測船に搭載し、大気海洋相互作用の研究に供して欲しいとの依頼があり、特に新学術領域研究・中緯度大気海洋相互作用Hotspot（2010-2014年度）、Hotspot2（2019-2023年度）にも参加し、その航海数は30回に達する。研究の手法や分野は変遷しているが、大きくみれば興味は理学的なことにあった。また、その時々において感動的なことがあったのは幸せであった。

さて合か否か？

海洋環境科学部門　教授
神　田　穣　太

順番が来るのは致し方なく、この原稿の依頼がありました。受験で傾向と対策が大事なのと同じく、何事にも事前のリサーチが重要、というのが、職業生活を通じて私が得た教訓の一つです（すなわち、私はきちんとせずに失敗が多かった、ということです）。で、この「退職の年を迎えて」小論文?は、先達による模範解答の分析から始めます。

圧倒的に多い書き出しは、○○年にこの大学に赴任し、以来○○年間・・・というものです。私の場合は2000年12月に当時の東京水産大学に着任し、以来22年4ヶ月間お世話になりました。その次に、在任中の思い出や経験に基づく後進への助言などを記し、お世話になった皆さんに感謝、という流れが王道です。王道には理由があるので通常は従う方が良い、というのも教訓でした（すなわち、私は王道に逆らって･･以下略）。おっと、残り245字です。本学着任前の2大学を含めて三十数年間、航海で方々行かせていただいたこと、本学でいくつかの組織立ち上げに関わらせていただいたこと、さらに・・・制限字数は目前ですね、困難な状況では優先すべき事項を決めておく、というのも私の得た教訓の一つでした。

研究室メンバーはじめ学生の皆さん、事務局、センター、練習船の皆さん、そして先生方、大変ご迷惑をお掛けして、かつ大変お世話になりました。深くお詫びとお礼を申し上げて、指定の600字ちょうどで職業生活のまとめです。さて合か否か?

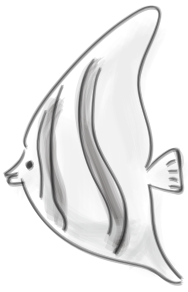
帰去来辞にかえて

海洋環境科学部門　教授
鈴　木　秀　和

私が前身の東京水産大学の門をくぐったのは「あとがない昭和53年度入試」の難を乗り切った1978年4月でした。そう、私は一期校受験入学の最後、言い換えれば共通学力試験や大学入試センター試験を知らない最後の世代です。それまで一期校と二期校に二分されていた国公立大学は、この制度の廃止と大学共通第1次学力試験の導入により大きく変貌しました。一期校といえば、旧帝大の東京大や京都大、一橋大、東京芸大等、まさに超難関大学が顔を揃えていました。その中にあって水産大は異彩を放っていましたが、その伝統は海洋大となった今も受け継がれていると感じます。

修士課程修了後、それまで黒板を前に座してきた私は、いつの間にか黒板を背にした人生を歩み始めました。神奈川県公立高校の理科教諭からスタートして都内の私立高校まで20年、そして母校海洋大で17年。平凡なる年月でしたが、私の公生涯は邂逅と謝念に尽きます。小生意気な若造を親身になってご指導してくださった先輩の方々、やる気とイケイケで共闘してくれた同僚・後輩の方々、傍若無人な私を「先生」と呼び慕ってくれた生徒・学生諸君、そしてこんな私を支えてくれた家族。ありがとうございました。私の教員人生は、すごく密でした。そして間違いなく、そこには邂逅の歓喜がありました。感謝です。

五斗米の為に腰を折るのに嫌気がさした訳ではありませんが… さあ帰りなん、いざ! 私を待つ「新しい景色」を楽しみにして。



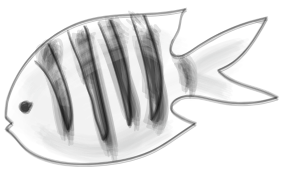
ありがとうございました

海洋環境科学部門　教授
田　中　祐　志

初めてここに来たのは40年前、元気な院生の頃、学会参加のためでした。大阪から夜行の銀河に乗り、06:37に品川駅で降り、狭く長い地下通路から地上に出、広い青空の下、気分良く東に歩き、黒い運河を越えて正門に着きました。学会が始まるまで、走路の内側だけ削れたトラックを周り、雑草目立つ無人の広いグラウンドで柔軟などして時間を潰しました。グラウンドは日出から日没まで賑わうものだと思い込んでいた私は戸惑いました。これが始めて品川で受けた文化的衝撃でした。それから15年、紆余曲折を経た後、本学で働かせて頂けることになり、四半世紀もお世話になって、本日無事に定年を迎えました。

この間、実に多くの方々に助けられ、励まされ、時には叱られ、支えられてきました。学生諸君にも多くを教えられました。皆様に心から感謝しております。ありがとうございました。

この四半世紀に本学は随分変わりました。法人化、水産大と商船大の統合、新学部設置、管理体制（所謂ガバナンス）の強化、…。女学生増加や学寮個室化は時代の象徴といえるでしょう。今後も刻々の変化を余儀なくされるとしても、変えてはいけないことがあります。大学の最も大切な目標、即ち次代のために人を育てることです。本学が我国唯一の「海の総合大学」として日本と世界に末長く貢献されますよう、謀略に易々と眩まされたり惑わされたりしない頑強の組織であり続けられますよう、心から願っております。



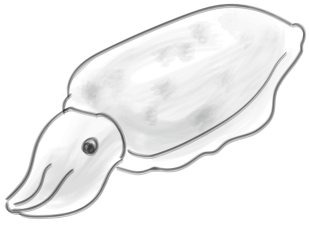
大学生にとって「卒業研究」とは

海洋環境科学部門　教授
根　本　雅　生

このたび、退職の年を迎えることとなりました。こうして無事にこの日を迎えることができましたのも、多くの教職員、船舶職員、学生の皆様に恵まれたおかげと考えます。改めて心よりお礼申し上げます。

1979年、東京水産大学に入学し、卒論研究では新設された漁業情報学研究室に同期7名とともに1回生として配属されました。誰ひとり先輩がいないこともあり、同期とともに日々問答しながら、研究の新たな視点・切り口を模索していた気がします。大学院へ進学し、その道を進むなかで、学生とともに切磋琢磨しながら、教育・研究に携わっていきたいという想いが強くなり、運よく1989年11月に海洋生産学科助手として着任いたしました。その後、海洋環境学科、海洋環境科学科へと所属は変わりましたが、周りの方々に支えられながら、どうにか歩んでくることができました。本当にありがとうございました。

大学生にとって「卒業研究」を通じて培われるものは、とても貴重なものと考えます。自分自身で一から考え、研究計画を立案し、いろいろなものを調べ、実験・解析を進めていく。そう簡単に結果が得られることはないでしょう。様々な壁に阻まれ、それをいかにして乗り越え、次なる実験方法・解析の道を切り拓いていくか。広い視野を持って研究テーマに真正面から取り組み、それを取りまく課題・問題点を明確にしながら、ひとつのものとして取りまとめていくことが、皆さんの将来にとって、大いに役立つ自信につながることと思います。そして、未来ある皆さんにとって、新たなる第一歩となることを期待しています。



良き師に巡り会う

海洋資源エネルギー学部門　教授
下　島　公　紀

40年以上前に海洋研究者を志して以来、研究者として過ごしてきた。振り返ってみると、ひたすら海に出て現場を這いずり回って研究だけを進める生活を続けてきた。2017年4月の新学部設立に伴い、その前年に海洋大に来ることになった。長い間を研究者として過ごしてきた私は、研究者生活の最後に研究者と教育者を両立することになったわけである。

さて、私は古い人間である。古来の師弟関係のように「技術は習うのでは無く盗め」が教育であると信じている。よって、技術を盗むべき価値のある師の存在が重要になってくる。運の良い私は、学生時代に良き師に巡り会い、「知る」ことの楽しさに気づき、師から多くのものを盗んで自分の糧とすることで研究者としての基礎を築くことができた。

定年を迎えた今、教育者として海洋大生に伝えたい一言は、「諸君！良き師に巡り合え」である。大学生活だけでなく、社会に出てからも、趣味においても，遊びにおいても、良き師に巡り会い、その技術を盗み、成長を目指して欲しい。

私にとって、研究者生活の最後に「教える」ことの楽しみ（苦しみ?）を経験できたことは僥倖であった。翻って、学生にとって僥倖であったかは、敢えて触れないことにしよう。

大学院紹介

海洋資源環境学専攻／海運ロジスティクス専攻／応用環境システム学専攻

海洋資源環境学専攻 －博士前期課程－

海洋資源環境学専攻　専攻主任　教授
戸田勝善

現代、地球温暖化が原因と考えられる異常気象の頻発をはじめ、様々な環境変動が深刻化しています。また、それとともに、地球温暖化を促進することなく、クリーンで持続可能なエネルギー開発が喫緊の課題となっています。海洋資源環境学専攻では、このような課題を念頭におきながら、海洋環境を保全しつつ、資源を持続的に利用するため、海洋の成り立ちと保全、海洋生物と環境との関わり、海洋・海底資源及びエネルギーの開発と利用に係わる諸課題について、理学的及び工学的な視点からその先端的な学理と応用技術に関する教育・研究を行っています。本専攻は、海洋環境科学、海洋資源エネルギー学の2専攻分野からなり、海洋の環境科学及び資源工学の分野で活躍できる人材を養成します。

まず、海洋環境科学分野について紹介します。本分野は、さらに2つの学系、海洋生物学系および海洋学系から構成され、主に理学的観点からのアプローチを行います。海洋生物学系では、海洋に生息・生育する微生物から魚類・無脊椎動物・大型動物や藻類までを対象とした分類、分布、生活史、形態、生理生態学特性について、また被食・捕食、共生などの生物間の相互関係、個体群や生態系の動態と環境との関係について教育・研究を行います。さらに、海洋（水圏環境）の物質について、海洋環境の保全や海洋の有効利用に関して化学的な観点からも教育・研究を行います。

一方、海洋学系においては、地球規模からミクロな規模までの様々な時空間スケールで発生する海洋物理現象を観測・実験・解析を通して正しく把握し、海洋循環モデルや生態系モデルを構築するとともに、その根幹を成す物理・生物環境変動機構の解明を目的としています。さらに、流体・拡散現象の数学的観点からの解析にも取り組んでいます。これら教育・研究を通して、先端技術を応用した海洋計測システムやそこから得られる多様な情報を処理する方法など、海洋環境動態の解明と予測に不可欠な事項に関する知識や技術、ならびに海洋の有効利用や海洋生態系の保全・生物多様性の維持のための方策を提示できる知識と技術を身につけます。

次に、海洋資源エネルギー学分野について紹介します。本分野では、海洋とその資源・エネルギーを、環境を保全しつつ持続的に有効利用するための先端的科学

「外洋観測実習（汐路丸での観測の様子）」
2021 年に就航した汐路丸には、最新の観測機器が搭載されており、それらを用いて海洋観測の実習を行なっています。2022 年度は小笠原方面で本実習を行い、写真はプランクトンネットを用いた観測風景です。海洋物理、海洋化学、海洋生物を専門とする教員が共同で実習を行なっています。

技術について教育研究を行います。特に、海洋環境の保全と資源·エネルギーの開発·利用とのバランスを図り、海洋生産活動の安全性・生産性向上のための工学技術に焦点を当てます。

具体的には、海底鉱物およびエネルギー資源の成因解析・探査・開発・利用および利用施設の環境性・安全性・経済性の向上、環境保全型海洋機械システム、海上作業や船の安全性、沿岸域の保全と安全な利用、海洋生物の資源量·生態·環境の音響計測、水圏環境の浄化、等に関する教育研究を行います。また、洋上風力発電を共通の研究対象として、様々な観点からのアプローチによる協同的な取り組みも行っています。

多くの学生の皆さんと問題意識を共有し、本専攻の取り組みが現代的課題の問題解決に寄与できること、そして皆さんが未来の担い手として成長されることを願っております。

海運ロジスティクス専攻 −博士前期課程−

海運ロジスティクス専攻　専攻主任　教授
竹　本　孝　弘

我が国が海洋立国として発展し、国際貢献の一翼を担っていくためには、国内唯一の海洋系大学である本学が、「海を知り、海を守り、海を利用する (Voices from the Ocean) 」ための教育研究の中心拠点となって、その使命を果たす必要があります。このような観点から、本学は研究者を含む高度専門職業人養成を核として、海洋に関する総合的教育研究を行っています。博士前期課程海運ロジスティクス専攻では、次の分野を教育研究対象としています。

・海上貨物輸送の主体である船舶の安全性
・環境と調和しながら経済性を確保し高度な情報技術を応用した船舶の運航管理
・船舶の運航技術を活用した新たな海洋構造物を設計·運用・管理
・貨物の流れを海·陸·空輸送を含む複合一貫輸送の中で捉え､その物流の経営工学的最適化
・経済性､貨物情報のネットワーク化､港湾の貨物管理の情報化など物流に関する社会工学的側面

当専攻が教育研究対象とする船舶の安全性、船舶運航管理、海洋環境、海洋構造物、物流を取り巻く環境は、近年大きく変化しています。船舶の安全性、船舶運航管理については「自動運航船」の開発が上げられます。海上安全の一層の向上、船上の労働環境改善、産業競争力の向上·生産性の向上等の観点から、自動運航船の開発が進められており、国土交通省は「陸上からの操船やAI等による行動提案で、最終的な意思決定者である船員をサポートする船舶」を「フェーズII自動運航船」と類型化し、2025年までの実用化を目指しています。当然、自動運航船に乗り組む船員、陸上オペレータには新技術への対応が求められます。海洋環境問題では海洋プラスチックゴミが地球規模の課題として対策が急がれています。また地球温暖化対策推進法も制定され、我が国は2050年にカーボンニュートラルを目指すとしています。温室効果ガスの排出削減のため、新たな船舶推進システムの開発も進んでおり、電気推進は実用化され、新たな燃料としてLNG（液化天然ガス）やアンモニア、水素の利用も検討されています。このような変化に対応できる優秀な船員の養成・訓練も重要となっています。海洋構造物に関しては再生可能エネルギーの観点から、洋上風力発電は既に商業運転に入っていますし、潮力発電の研究も進んでいます。このような海洋構造部を建造するためにはDPS(自動船位保持システム) を装備した船舶が不可欠で、その運用を担うオペレータの養成も急ぐ必要があります。海上物流は現在も増加傾向にあり、主要港湾における運航スケジュールの遅延、欠航や抜港、滞貨などが常態化しており、改善の見通しが立たない状況が発生しています。また、海·陸·空を含む国際複合一貫輸送においては様々な課題も解決しなければなりません。このように、海運ロジスティクス専攻が取り組むべき課題は山積しており、大学院ではその解決に向けたチャレンジをとおして、船舶、海洋、物流に関する知識を深めることができます。

汐路丸での操船実験

応用環境システム学専攻
－博士後期課程－

応用環境システム学専攻　専攻主任　教授
荒　川　久　幸

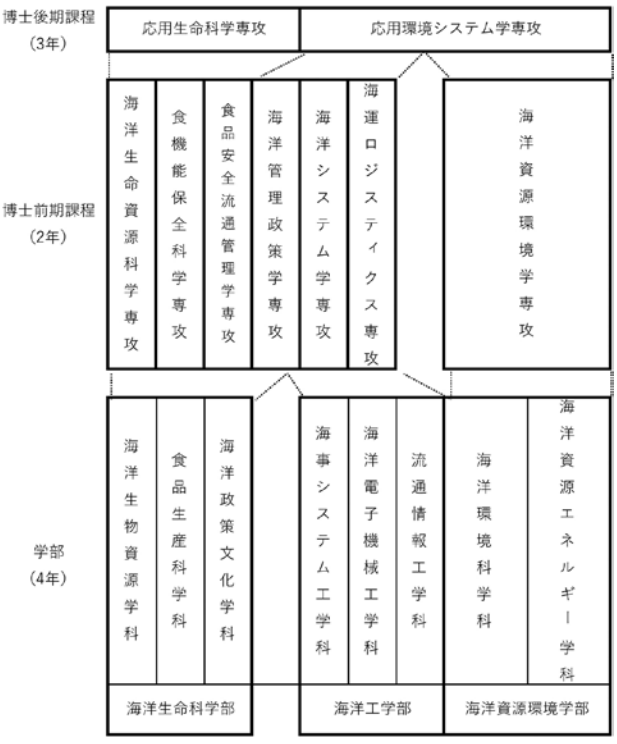
博士後期課程-応用環境システム学専攻と言われても、博士後期課程を詳しく知らない人にはちょっとイメージが出来にくいのではないかと思います。そこで、博士後期課程の位置づけから理解してもらいたいと思います。大学の教育課程を図1に示してみました。この図はざっくりと構成を理解するための図です。実際には複雑ですので実態を表し切れていません。学部は3学部(8学科)、博士前期課程は7専攻あり、学部の上位学年として建物の2階部分のように作られています。博士後期課程はその3階部分として2専攻で構成されています。応用環境システム学専攻が広い範囲の分野で構成されていることが理解できると思います。

学部、博士前期課程、博士後期課程で何が違うかというと、研究への取り組み方が大きく異なります。学年が進むにしたがって、基礎的な教育から、専門教育、そして研究へ比重が移っていきます。学部、博士前期課程、および博士後期課程ではそれぞれの課程を修了する際に、卒業論文、修士論文、および博士論文を執筆することになっています。卒業論文は、研究の仕方の勉強を行いますので、単位で認定されます。修士論文と博士論文は、単位という形ではなく、論文の審査を行います。そして審査に合格すれば、修了することができます。博士論文の審査に合格するためには、博士論文の内容の一部を科学誌に投稿して、研究内容に印刷の価値があることを認めてもらう必要があります。このことを通して研究の進め方を詳細に学ぶことができます。

応用環境システム学専攻は、海洋環境学、環境保全システム学、海洋利用システム学、海洋安全テクノロジー、ロジスティクス、海洋機械システム学、産業政策文化学、および海洋探査・利用工学の8つの専攻分野で構成されています。ここでの研究内容は、海洋環境の解明・利用・保全に関した学理と技術に関連する学際領域の開拓とされ、海洋環境の変動機構・物質拡散の計測と予測、資源探査技術の創出、海洋生物と環境の関わり、安全効率的な海上交通輸送システムの構築、先端推力システムの開発、海洋管理政策提言等を対象としています。海洋に関する非常に広い分野をカバーしていると言えます。詳しくは専攻のHPをご確認ください。

本専攻の1学年の入学定員は21名（応用生命科学専攻含め40名）です。ここ数年、定員をわずかに超える程度の入学者があります。その約半数は留学生です。残りの半数は博士前期課程からの進学者です。博士前期課程の入学定員が228名ですので、ほとんどの学生が後期課程への進学はせず就職する道を選んでいます。それぞれの専門を深く掘り下げるためには後期課程への進学も人生を豊かにする一つの選択肢だと思います。在学期間に関する修了要件は、学部4年以上、博士前期課程2年以上、博士後期課程3年以上となっています。学部と博士前期課程では多くの学生が最短の期間で要件を満たしますが、博士後期課程では上に示す研究の用件を満たすために長くなることが良くあります。しかし、成果が早く出た場合には早期修了などの在学期間短縮の制度も整備されています。また社会人学生のように長期間かけて修了を目指す人のためには長期履修制度もあります。

進学した後の生活には不安があると思います。本学では、令和3年度に文部科学省の創発的研究支援事業（創発的海洋研究・産業人材育成支援プロジェクト）に採択されたことにより、博士後期課程に属する研究者の経済的な支援を行っています。博士後期課程の在籍者がこのような制度をうまく利用して、専門性の高い人材となり、海洋の広い分野で活躍してほしいと思っています。



東京海洋大学の教育組織の構成

国際交流プログラム

自分を変えたシンガポールでの充実した一か月間

海洋資源環境学部　海洋環境科学科2年
松　崎　愛　海

「英語に触れたい」「大学在学中に海外に行く経験がしたい」これは私の大学入学前からの希望でした。今回海外探検隊に参加することができたことで、その希望が現実になりました。

私は海外探検隊第19期シンガポール派遣に参加し、7月15日～ 8月13日の29日間にわたってシンガポールに滞在し、現地において企業研修やシンガポール国立大学(NUS)での研究活動などを行いました。シンガポールチームは学部3年生2人と2年生2人の4人で構成されており、和気あいあいとしたメンバーです。

海外探検隊の存在は大学入学前から知っており、入学したら参加してみたいと考えておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響から、入学後1年間は実施されず、私自身も応募せずにいました。しかしながら、今回は実施できる可能性が高いということで応募し、幸いにも29日間のプログラムを最後までやりきることができました。

現地におけるプログラムは困難も多かったですが、充実していました。英語を日常的に使用するという環境に慣れるまでには時間がかかりましたが、良い経験になったことに加え、英語を話すことへの抵抗もなくなりました。また、シンガポールでは社会人として活用可能な力を身に付けることも目的の1つであったため、現地の日本企業の方々の話を聞く際に、将来に有用なマナーについても学びました。企業研修やNUSでの研究活動も日常生活では体験する事ができない、「非日常」の連続でした。

◀Josephさんの養魚場にて（筆者は左端）

NUSでのLab work（筆者は左端）▶

シンガポールでの経験はどれも貴重で今後に生かすことができることばかりです。このような経験をすることができ、応募して良かったと心から思っております。携わってくださった皆様に、感謝申し上げます。

OQEANOUS Plusショートタームプログラムに参加して

海洋資源環境学部　海洋資源エネルギー学科4年
大 日 方　　稜

私を含む四人の学生が2022年度のOQEANOUS Plusプログラム（以下、オケアヌスプラス）のShort Term Program(STP)に参加しました。今回のSTPは、7月：参加している各国の大学のオンライン授業、9月：約一週間のタイへの訪問、10月：訪日した他大学の学生と海洋大で交流、12月：最終発表というのが大まかな流れでした。タイのカセサート大学およびチュラロンコン大学を訪問したときには、実際にキャンパスや研究室を見学し、その大学に留学している海洋大生の話も聞くことができたので、現地での留学生活についてよくイメージできました。また、大学に隣接している政府機関の見学では、そこで働いている日本人の方から日本とASEANの結びつきや行われている取り組みについて知ることができました。

STPで前述のような体験をしたこともあって、私は2023年2月からオケアヌスプラスのInternational Joint Programによりインドネシアのボゴール農科大学への半年間の留学が決まりました。お金もかかるし、外国はよくわからないし、卒論もあるしということで、自分は留学に行くことをあまり真剣に考えていませんでした。いざ自分が行くとなると、大学からの金銭的な補助

タイのエビ養殖場を訪問

があることや、オケアヌス事務局の手厚いサポートがあることがわかり、研究室の先生は留学を後押ししてくれました。オケアヌスプラスプログラムは、留学したいという意志さえあれば留学できる仕組みが整って挑戦しやすい環境だと思います。興味のある方は、オケアヌス事務局にお話を聞きに行ってみてはいかがでしょうか。

「海外インターンシップに参加して」

海洋工学部　流通情報工学科3年
大　槻　亮　介

私は物流について深く学びたいという思いがあり、1週間ほど、日立物流の海外インターンシップに参加しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、東京の日立物流本社からオンライン会議システムを用いて参加しました。日立物流やタイにあるグループ会社についての講義、3PLやフォワーディング、重量機工などの事業についての講義などに加え、タイの現地法人の方との会議や流通情報工学科の卒業生との座談会など様々な経験をしました。それを踏まえ、最終日に英語で発表するという内容でした。

特に印象に残っているのはアジア極の概要についての講義です。その講義ではアジア極の説明に加えて、将来を考えさせるような内容でした。そのなかでも、「日本は世界にどうあるべきなのか」ということを大変考えさせられました。話してくださった方の一言一句すべてが金言でした。

最終日に英語での発表では、語学力のなさを痛感することになりました。もともと私は超が付くほど英語が苦手で、成績表では英語に可が並ぶほどです。しかし、これを機に語学に興味を持ち、勉強しようと感じました。それに加え、語学は使おうとすることで成長すると感じたので、今後、語学を使っていこうと感じました。

最後になりますが、本インターンシップでは人生が大きく変わるような様々な経験をさせていただきました。

筆者は上段右

株式会社日立物流の皆様、ならびに本インターンシップにご協力いただきましたすべての皆様に心より御礼申し上げます。

海外インターンシップで学んだこと

海洋工学部　流通情報工学科3年
柧　木　佑　未

私は2022年7月から8月にかけての10日間、損保ジャパン中国社のインターンシップに自宅からオンラインで参加しました。様々な企業の方々や損保ジャパン中国社の社員の方々による、中国でのリスクマネージメントに関する講習や、物流リスクに関する個人演習と団体演習を行い、大変有意義な体験をさせて頂きました。

このインターンシップに参加したのは、2年後期で受講した物流リスク工学が面白いと思い、リスクマネジメントについて学びたいからという理由でした。しかし実際に参加してみると、リスクマネジメントについて学べただけではなく、中国の凄まじい経済成長を肌で感じていらっしゃる損保ジャパン中国社の方々からの現地のお話や、グローバル社会で活躍するために大事なことは何かという、非常に貴重なお話を多くして頂きました。その中で、自分の語学力や様々な能力のなさを痛感し、新型コロナウイルスの流行を言い訳に1年生のころからあまり勉強に真剣になってこなかったことを非常に後悔しましたが、今後グローバル社会で活躍できるような人材になりたいと強く思うきっかけにもなり、感謝の気持ちでいっぱいです。インターンシップ参加後は、英語だけではなく中国語の勉強にも励んでおり、将来は物流を学んでいる身として国際物流を支えるような仕事をしたいと考えております。

最後になりますが、本インターンシップの開催にあたってご協力頂きました、損保ジャパン中国社の皆様、外部講師をして下さった企業の皆様、流通情報工学科の教職員の皆様に改めて感謝申し上げます。

（執筆者：写真中段右）

卒業生より

業界で活躍しているOB・OGの方々

大学生活の思い出

2008年3月　水産学部食品生産学科卒業
2010年3月　大学院海洋科学技術研究科食機能保全科学専攻修了
2013年3月　大学院海洋科学技術研究科応用生命科学専攻修了

金　子　浩　大

海洋大学へは高等専門学校から編入したので、3年生からの在学でした。途中からでしたので既にグループが出来上がっており、3年生は授業も減るため同期と会う機会も少なく、内気な私は多くの時間を一人で過ごしておりました（他の編入生は打ち解けていたので私の問題です）。その時分は親戚宅に居候をしておりましたので、祖母に「ずっと家にいるとよぐねぇから休みくらい公園でも行ぎ。」と東北弁で注意をされながら、引きこもる生活を続けておりました。

4年生の研究室の配属では、一緒に研究室に行く友達がいなかったので漏れ聞こえてくる噂を聞いて研究室を選択、女性三人と私一人という不慣れな環境に身を置くことになりました。ただ、その三名はとても親切で、1年間とても楽しく卒業研究に取り組むことが出来ました。

修士へ進んだ理由は、在学期間が2年間と短いのでもったいないなぁ、と思ったからでした。この時から一人暮らしをすることになりましたが、東京はとても賃料が高く困っていたところ、運よくその時バイトをしていた個人経営塾に仕事をしながら住んでよい、というお話を頂きました。個人スペースはお風呂場と押し入れだけでしたが、生活するには十分でした。塾なので洗濯機と干す場所がなくコインランドリーを利用していましたが、節約の為一度に多く洗濯すべく、深夜にシャツ一枚とタオルを巻いた状態で外出したことを記憶しています。ただ、その生活も長くは続きませんでした。途中から明るく熱心な先生が入ってきたことで、私のシフトは減っていきます。最終的にはバイトをしていないのに住むこととなり、居心地が悪かった私は塾の電気が消えるまでこそこそと外で過ごす、まるでネズミのような生活を続けていました。

博士課程からは別の住居を探すことになりました。家を借りるまで住む場所がない期間が出来てしまったのですが、一時的に父の知人の寿司屋さんの倉庫に住ませて頂き、その後蒲田へ引っ越しました。京浜東北線から

仕事で上海に出張に行った時の写真

2mくらい離れたところに建つアパートで、車輌のライトや走行音が凄まじかったこと記憶しています。そこは居住が1年限定でしたので､最終的には西大井にあるアパートで学生生活を終えました。

私生活のことばかり書いてしまいましたが、博士課程を無事修了し、ミテジマ化学という化学メーカーに入社することが出来ました。入社後は中国の食品添加物製剤の開発､木材不燃薬剤の開発､抗ウイルス薬剤の開発､天然物を応用した防錆剤の開発、食品添加物を使ったセーターの毛玉防止加工法の開発など、様々な成果を挙げることが出来ました。

このような生活を送っていても様々な成果を挙げることができたのは、海洋大学の諸先生、ひいては指導教員の大迫教授の熱心なご指導のお陰だと感謝の念に堪えません。

在学生の皆様には私の経験はあまり参考にはならないと思いますが、大学で学んだことは社会に出てからも大きな力となると思います。漫然と過ごすのではなく、限られた時間で多くのことを学び、将来たくさんの活躍をしてくれることを期待しています。

学生の皆さんへ

卒業年　2021年度　海洋資源環境学部海洋資源エネルギー学科卒業
勤務先　ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社
洋上風力開発本部
池　口　徳　臣

私は、学部卒業後、再生可能エネルギー事業を手掛ける会社に入社しました。当社は太陽光、陸上風力、バイオマスの発電所を開発･運転しています。今後は洋上風力発電の開発への取り組みも強化していく方針であり、私は洋上風力発電事業のプロジェクトマネージャーを担当しています。具体的には、事業計画策定のための海底地盤調査や風況調査、風車基礎の設計や漁業共生策の検討など、幅広い業務にプロジェクトマネージャーの立場で携わっています。以下の文章では今の仕事に決めたきっかけ、大学生活で意識すると良いと思うことを社会人2年目の立場で僭越ですが、記しています。

今の仕事を選択したきっかけは海洋資源エネルギー学科に入学したからこそ掴めたと考えています。再生可能エネルギーには大学入学前から興味がありました。とはいえ、ざっくりとした興味でしかなく、今後の生活でどのように携わりたいかは曖昧でした。再生可能エネルギーとの携わり方を明瞭に思い描けるようになった要因は講義や卒業研究にあったと感じています。特に3年次に学んだ講義及び卒業研究のテーマは進路を決めるうえで大きな経験でした。3年次の講義は洋上風力発電に係るイメージを持てる学びを体系的に得られる機会であったと思います。講義では技術面の話だけでなく、法学面から港や海における規則を学ぶことや漁業を盛り上げるための活動をしている方の講演で現場の取り組みを知れることができました。どのようなルールが既に海には存在し、そのルールで先行利用者は何をしていて課題をどこに感じているか、その中で新しい取り組みである洋上風力発電はどのように共生できるか考えさせられました。卒業研究では浮体式洋上風力発電に関するテーマの研究をしました。研究では今後浮体式洋上風力発電を開発していくために解決すべき課題の1つを研究テーマにしたことで洋上風力発電設備を設計するにあたり検討すべき条件がどれだけあるか知ることができました。この2つの経験は洋上風力発電を包括的に携われる立場を担いたいと思うきっかけになりました。

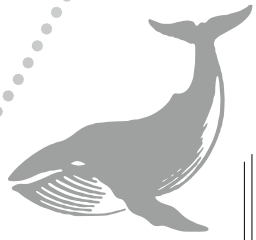
また、大学で学んだ技術的な知見が仕事に活きる場面もあります。例えば、海洋開発学実験で行った室内土質試験や太陽光発電や風力発電のメカニズムを知る実験です。実験で得た経験のおかげで仕事をする中で、当社内の地質や電気分野を専門にしている方との会話で、頭に会話内容のイメージを描きながら話すことができる時もあります。

大学では様々な分野のスペシャリストである先生から今後どこかで役立つ教えを受けることができます。社会人になると大学生の頃のように気軽に先生に質問できる環境は貴重であったと思います。講義内容に興味を持てないことや理解できず耳を塞ぎたくなることもあると思いますが、理解しようと取り組むだけでも、ふとした瞬間に役立つことがあります。私自身の反省として、分からないことを放置せず、直ぐに理解している友達や先生に質問するなどして解決しておくべきだったと思っています。

学生という短い時間を有意義に過ごすことで、皆さんの大学生活が充実することを願っています。

大学祭特集

実行委員長から
海鷹祭の紹介



「今年度の海鷹祭を終えて」

第63回海鷹祭実行委員会委員長
海洋資源環境学部　海洋資源エネルギー学科3年
重　村　篤　希

第63回海鷹祭実行委員会委員長を務めてまいりました、重村篤希と申します。11月4日から11月6日にかけて第63回海鷹祭を3年ぶりに海鷹祭を対面で実施することができ、3日間で約8500人の方々にご来場いただきました。誠にありがとうございました。

本年度は新型コロナウイルスの影響により“例年通りの開催”ということにはなりませんでした。各団体にとっても今までできたことが出来ず出展内容に悩まされたかと思います。委員企画もおおむね例年通りできたものもあれば大幅に変更する必要があったものもありました。まずは入場関連です。今年度は1日あたりの入場人数に制限をかける必要があり、それに伴い入場管理を行うシステムを導入する必要がありました。（＋検温も）これは正門をくぐるときのみならず、ステージゲストの観覧などにも必要となっており、来年は制限を付ける必要がないことを切に願います。また、例年s-1グランプリという名称で行っていた出店のコンペ企画からExhibition-No.1グランプリと名称を変え展示を行う学内団体を対象にどの展示が一番人気か来場者の投票により決める企画に変更いたしました。本年度は接触をなるべく避けるためQRコードを用いてweb投票してもらう形を取りました。例年の名物だったマグロ丼を提供できずに残念に思っています...実はコロナだけではなく燃料費の高騰による影響で仕入れの難しさがますます上がっています。来年頑張ってください。

一方で新しく取り組めたこともあります。その一つが過去に“アカデミックな内容の出店が少ない”とご指摘いただいたため本年度から新しく「海鷹図鑑～海洋大の先生が大集合～」というものを企画しました。本企画は本学の教授が講演を行い、東京海洋大学に興味はあるが実際にどのような研究を行っているのかは知らない中高生をターゲットとしたイベントでしたが実際は多くのファミリー層に来場していただき、10代のみならず幅広い年代に楽しんでいただくことができました。今年度はより一層、東京海洋大学は何をやっている大学なのか?ということを知ってもらえたと思っています。

他にもワードラリー、大学案内班企画、くじ引き、ステージゲスト（さかな芸人ハットリさん、さかなクンさん、漁港さんのライブ）、うみたかマルシェなど今年対面でやれてよかったこと書こうと思えばいくらでも書けるようなことがたくさんあります!

最後になりますが、毎年海鷹祭を応援してくださる 企業・組合の皆様や、本学学生を初めとする参加団体の皆様のご協力に、心から感謝申し上げます。また、飲食物の規定について説明不足で参加団体の皆様に多くのご迷惑をおかけした事、お詫び申し上げます。

今年度良かった点を反映させたうえで、また新しい海鷹祭を目指して第64回海鷹祭実行委員会が動き始めております。また皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。きっと新しい海鷹祭を見せてくれると思います。

新任教員の紹介

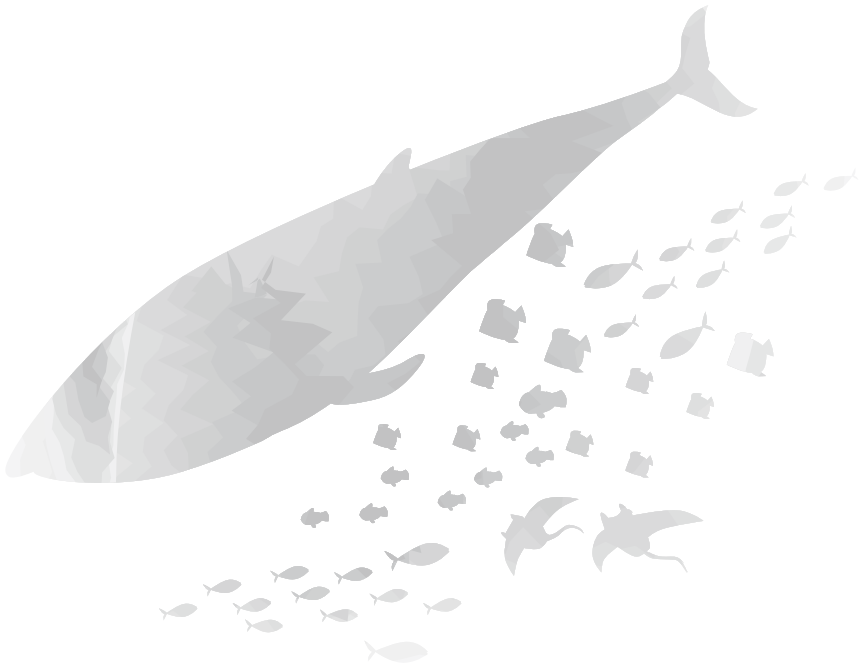
海洋政策文化学部門　准教授
畠　山　　大

海洋政策文化学部門の畠山大（はたけやま・だい）と申します。2022年10月1日付で着任いたしました。

私の専門は教育学です。これまで、「教える」とはどのような営みなのか、そして「教える」ことによって生じる人間の「学び」とは何なのか、ひいては「教育」とはそもそも一体何なのかという点について、主に教育哲学という視点から研究を行って参りました。一般に、教育についての問いを大きく分けるならば、教育とは「何か」を問う問いと、「どう」教育するのかを問う問いの2つに分けられると言われます。私の関心は、このうちの前者の「何か」を問う問いにあります。

本学に着任し、海と人と教育との関係を考える中で、この問いはますます重要になる予感を抱いております。ご存知の通り、「海」についてはまだまだわからないことも多く、そうした未知な部分を多様に含んだテーマを教育の場に持ち込むとき、「教育」のあり方も、これまでとは異なる発想で見直すことが求められるからです。教育は、一般的に言えば、すでにわかっていることを学習者に伝達する営みとして描かれやすいですが、そこにまだまだわかっていないことを持ち込むとき、未知の事柄を教育者と学習者が共に探究するという、これまでとは異なる教育のあり方が要求されるようになります。このとき、今まで当たり前だと思っていた教育への見方が問い直され、「教育とは一体何なのか」という問いが改めて問われることになります。

本学での教育・研究を通じ、さらに研究を発展させていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



学生の課外活動報告

硬式野球部

海洋生命科学部　海洋生物資源学科2年
部長　林　　泰　成

「初の4部優勝・3部昇格」

私たち硬式野球部は昨秋に行われたリーグ戦において初の4部優勝をしました。その後の入れ替え戦も2連勝し、27季ぶりの3部に昇格しました。８試合で９５得点を記録し、３選手がタイトルを獲得するなど春から大きく実力を伸ばしたことが顕著に表れました。今回のリーグ戦では、下級生が身につけてきた能力を発揮する中、ここまでチームを支え、ラストシーズンに燃える４年生コンビが要所で活躍を見せるなど、若手からベテラン、そしてマネージャーの全員が各自の役割を果たし、一丸となって戦うことができました。この春からは３部という一つ上のステージでプレーをします。昨秋の試合でのいい雰囲気をそのままに自分たちの野球を楽しみます。そのうえで、次の目標である３部優勝、２部昇格を目指します。今季は東京海洋大学の越中島キャンパスグランドでも試合があるので是非グランドに足を運んでください。応援よろしくお願いします！また、いつでも見学・体験できます。興味があればいつでもご連絡お待ちしております！

越中島写真部

海洋工学部　海洋電子機械工学科2年
部長　志　田　瑞　季

私たち越中島写真部は越中島キャンパスでの部会、学内外での写真展や撮影会などを行っています。

中でも海王祭や海鷹祭、外部の施設をお借りしての写真展には力を入れており、毎回異なったテーマを設定し、それに沿った写真を展示しています。写真を展示する順などにも気を配り、来場者の方が見やすい展示を心がけています。また、写真以外にも部員が所有するカメラを置き、撮影機材の紹介を行うこともあります。

写真部といえども、皆が一眼レフカメラだけで撮影している訳では無く、スマートフォンやフィルムカメラで撮影をしている部員もいます。そのため、作品ごとに雰囲気が全く異なっており部員同士で良い影響を与え合っています。

撮影会の撮影地は部員が各々候補地を挙げ、その中から部会での話し合いにより決定します。撮影会では、普段撮れないような写真も撮れたりするため、撮影技術の向上にも繋がっています。

今後もより良い写真を撮ることを目指しながら、それぞれが楽しんで活動していきたいと思います。

筆者は後列右から2番目

ニュース & トピックス

2022年度海洋工学部父母等懇談会

11月12日（土）に海洋工学部父母等懇談会を開催しました。感染症対策のため行っていたオンライン会議システムWebexに加え、大学に実際に来ていただいての対面との併用にて実施しました。

事前に郵送により通知したところ、多数の参加希望があり、対面にて132名　オンラインにて78名の方々にご参加いただきました。

当日は舞田理事の開始挨拶から始まり、舞田理事、庄司理事の大学におけるコロナウイルス対策や就職活動の様子など現状の説明と、事前に寄せられたご意見に回答する形での海洋工学部の教育等について、元田海洋工学部長からの説明までを、参加者全員に対して行いました。

後半は学科ごとに分かれて、質疑応答を行いました。各学科では、就職活動、乗船実習についてなどの質問に丁寧に回答しました。

参加者アンケートでは、対面・オンラインの併用を希望される意見が多かったことから、今後も可能な限り併用開催を目指す予定です。

品川キャンパスの父母等懇談会

令和５年3月に品川キャンパスオンライン父母等懇談会を開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年度に引続き事前の参加申込みによるオンライン(オンデマンド)での開催となりました。

舞田理事・副学長（教育・国際担当）、庄司副学長（広報・学生支援担当）、田中海洋資源環境学部長による大学の現況、学生支援、学部教育についての説明動画を掲載しました。また、質疑応答については、事前に質問を受け付け回答文を掲載、また個別の質問については直接回答しました。

昨年に引続きオンラインでの開催となりましたが、大変有意義な懇談会となりました。

3年ぶりの対面実施、「海の日」記念行事を開催しました

東京海洋大学では、海に親しみ・興味を持っていただくために、7月18日（月）の「海の日」に海の日記念行事を開催しました。越中島キャンパスでは約3年ぶりに対面での開催とし、出展イベント数を縮小したものの700名以上の方にお越しいただきました。また、品川キャンパスではオンラインでシンポジウムを開催し、160名以上の方にご視聴いただきました。

「やよい」と「らいちょう N」の東京湾ミニクルーズ

子どもに大人気「水の実験・船の工作教室」

本学在学生がボランティアで参加しました

OB による明治丸のご紹介

令和4年度9月期学生表彰授与式を行いました

令和4年度9月期学生表彰授与式を9月28日（水）、越中島キャンパスにおいて行いました。

授与式では、学生表彰規則に基づき、研究活動において特に顕著な研究成果を挙げた大学院学生6名および課外活動において優秀な成績を収めた学生団体1団体に対して、日頃の努力を称え、表彰状及び記念品が授与されました。

また、今回の授与式は会場とオンラインの併用により行い、1名の受賞者がオンラインにて出席しました。

井関学長（前列左から３人目）と受賞者

井関学長とオンラインにて出席の受賞者

令和４年度9月期学位記・修了証書授与式を挙行しました

令和４年度9月期学位記･修了証書授与式を、9月28日（水）に越中島キャンパス越中島会館講堂にて挙行しました。

今年度の9月期卒業生･修了生は、学部卒業生３名、乗船実習科修了生54名、博士前期課程修了生20名、及び博士後期課程修了生14名の計91名です。
それぞれ授与された学位記を胸に、思い出の詰まった母校から旅立ちました。

今年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出席者を卒業生･修了生と教職員のみに限定し、検温や座席間隔の確保等、例年とは異なる形式となりましたが、卒業生･修了生の門出を祝う温かい雰囲気の中での開催となりました。

井関学長から代表者への学位記・修了証書授与

なお、式典に参加できなかった皆様のために、当日の様子を撮影した動画（ダイジェスト版）を本学校友会ホームページへ掲載しました。
（視聴には、校友会IDでのログインが必要となります。）

井関学長からの式辞

校歌演奏（新型コロナ感染予防のため、演奏のみ (歌入り) ）

令和４年度10月期入学式（大学院）を挙行しました

令和４年度10月期入学式を、10月5日（水）に品川キャンパス楽水会館大会議室にて挙行しました。

本学では、大学院（海洋科学技術研究科）に10月期入学の制度があることから、この時期に開催しています。

新入生は、博士前期課程36名、博士後期課程18名の計54名が、東京海洋大学生として新たな一歩を踏み出しました。

今年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出席者を新入生と教職員のみに限定し、検温や座席間隔の確保等、例年とは異なる形式となりましたが、新入生の門出を祝う和やかな雰囲気の中での開催となりました。

なお、式典に参加できなかった皆様のために、式典の模様を撮影した動画（ダイジェスト版）を本学校友会ホームページへ掲載しました。
（視聴には、校友会IDでのログインが必要となります。）

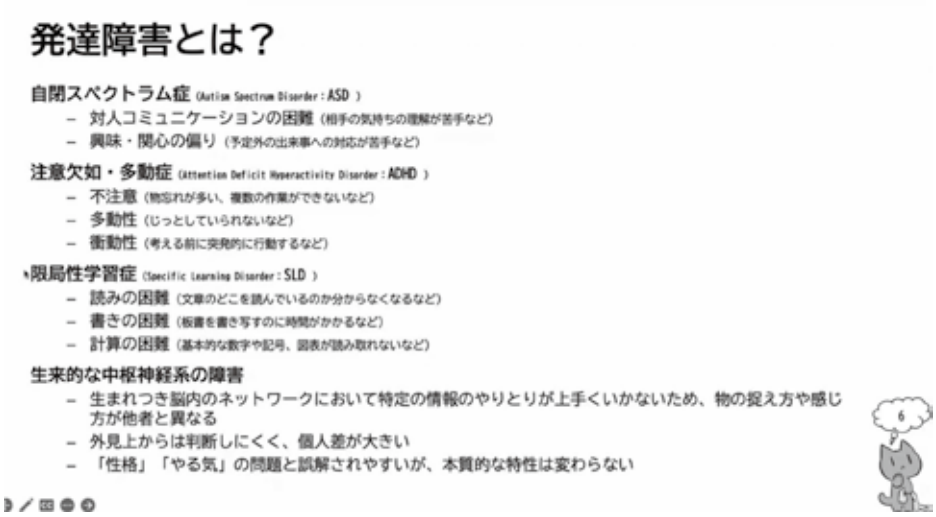
入学式風景

井関学長の式辞

障害学生支援のための研修会を開催しました

令和4年9月29日（木）、「障害学生支援のための研修会」をオンラインにて開催しました。筑波大学人間系佐々木銀河准教授を講師としてお招きし、「発達障害の診断や傾向のある学生への対応」と題してご講演をいただきました。

講演では、「発達障害の概論」、「障害者差別解消法と合理的配慮」、「学生支援に役立つリソースや対応方法等」、分かり易く解説していただくとともに、事前質問に対して簡潔にご回答いただきました。また、本学の特徴である乗船実習に関わる合理的配慮の解説等も交えていただき、質疑応答も行われ、多くの教職員が参加し充実した研修会となりました。



筑波大学人間系 佐々木 銀河准教授

学生支援・広報担当 庄司 るり副学長

令和4年度サークルリーダーシップ研修会を開催しました

令和5年12月14日（水）に、サークルリーダーシップ研修会をオンラインにて開催し、学生や顧問教員など総勢88名が参加しました。

この研修会は、各課外活動団体の学生代表者と顧問教員が、リーダーシップの在り方について講演やワークショップを通して理解を深めることを目的としたもので、今年度は、「SNSの使い方について」と題して東京都立町田高等学校指導教諭小原格氏を講師にお迎えして開催しました。

「SNSの使い方についての学習会～ソーシャルメディアと情報倫理」をテーマに講演していただき、「情報倫理」について、情報モラルと発達段階、「情報事故」が起こる背景、「情報事故」防止に向けて等についての講演を賜りました。

その後、庄司副学長・学生支援委員会委員長により、「課外活動等における注意事項」として冬季休業前に課外活動団体内で情報共有すべきことについて、の講話がありました。

リーダーシップについての理解を深める内容の充実した研修会となりました。

オンラインにて講演をする小原教諭

令和4年度朋鷹寮避難訓練及び自衛消防訓練の実施について

令和5年12月14日（水）に、品川キャンパス朋鷹寮避難訓練及び自衛消防訓練を行い朋鷹寮生約80名が参加しました。

当日は、朋鷹寮男子寮長を総括として避難訓練を行い、各フロアー長による避難誘導、避難状況の把握が行われ、女子寮長においては、避難状況の取りまとめ、男子寮長への避難状況の伝達が行われ、朋鷹寮生が逃げ遅れることなく避難訓練が行われました。

その後、高輪消防署港南出張所の隊員の協力のもと、自衛消防訓練が行われ、各班ごとに分かれて水消火器を使用しての消火訓練の実施、救急救護訓練では、AEDを使用して使い方の指導を受けました。

朋鷹寮生は、真剣に避難訓練及び自衛消防訓練に臨むことができました。

消火訓練を行う朋鷹寮生

二人一組で AED を使用しての訓練

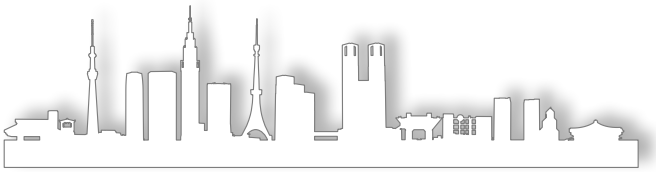
令和4年度学長と学生との懇談会を実施しました

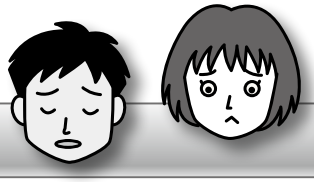
令和4年12月16日（金）に越中島キャンパス1号館1階第一会議室において、「学長と学生との懇談会」を開催しました。両キャンパス併せて6名の学生が対面及びオンライで参加し、井関学長、舞田理事（教育・国際担当）、庄司理事（学生支援・広報担当）、桑田理事（総務・財務担当）が対面で参加し、副学長、各学部長 、研究科長はオンラインで参加し、授業・カリキュラムについて、大学施設について、課外活動について等 課外活動について等多岐にわたるテーマについて活発な意見交換が行われました。

越中島キャンパスでの懇談の様子

学生と懇談する井関学長

学生相談室からのお知らせ





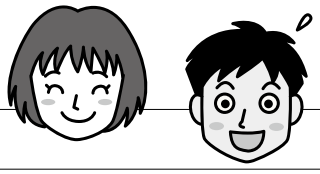
学生相談室について

学生相談（カウンセリング）

学生生活、進路、対人関係で悩みがある場合は、専門カウンセラーが相談に応じます。

話をしてみることで、あるいは自分の思いを表現してみることで、思いのほか気持ちが楽になったり、次への展開へのきっかけが見つかったりもするものです。相談内容についての秘密は厳守されています。

なお、曜日が変更となる場合がありますので、HPをご確認ください。



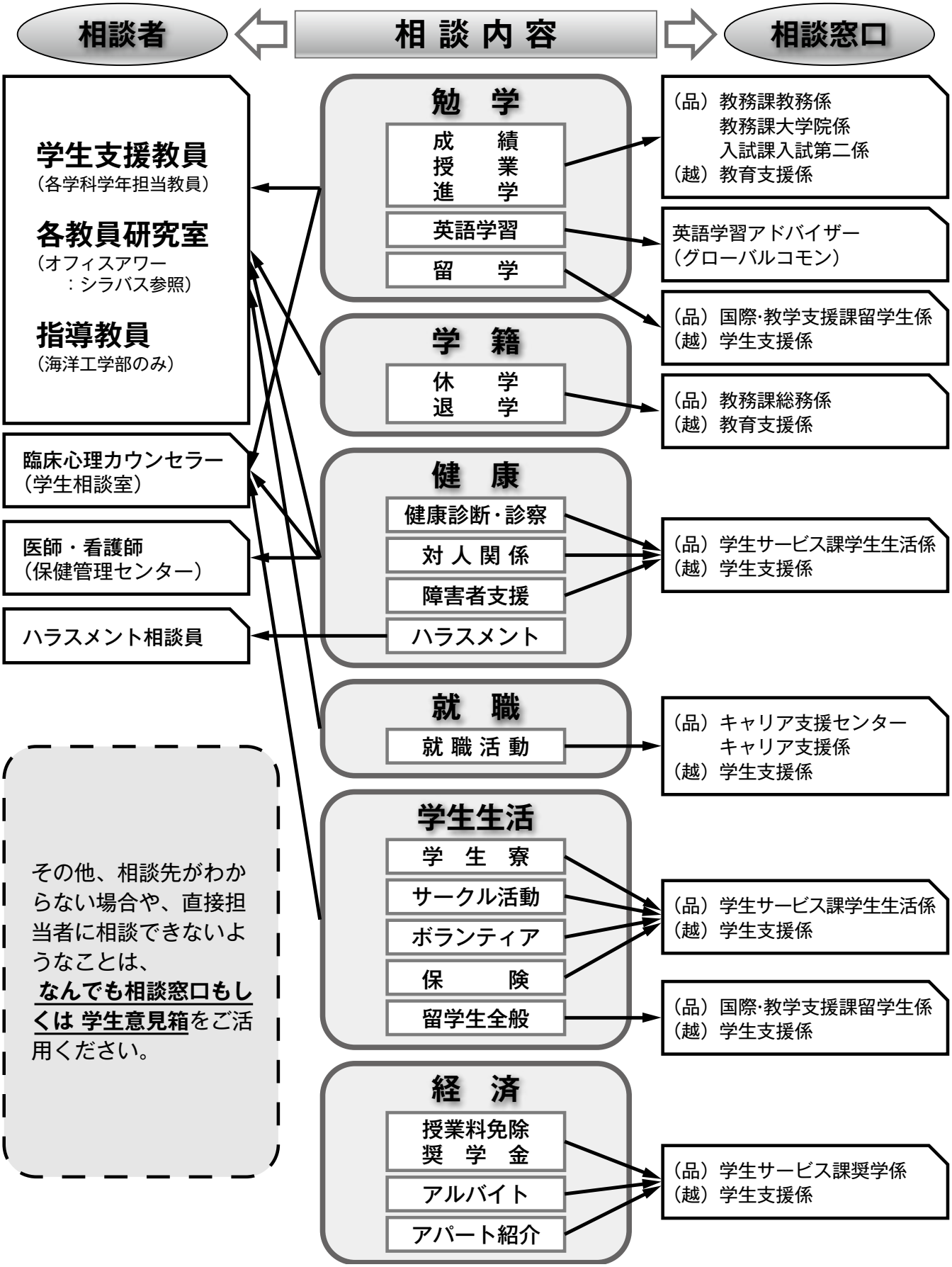
品川キャンパス

場　　所	大学会館１階学生相談室
日　　時	詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。
相 談 員	井上先生（女性：臨床心理カウンセラー・月曜日担当） 髙橋先生（女性：臨床心理カウンセラー・火曜日担当）
予約方法	メールでご予約ください。 メール　s-counseling@o.kaiyodai.ac.jp

越中島キャンパス

場　　所	越中島会館１階　学生相談室
日　　時	水・金曜日　12：00 ～ 16：00 詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。
相 談 員	善積先生（女性：臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 河崎先生（女性：臨床心理カウンセラー・金曜日担当）
予約方法	直接相談室においでくださるか、保健管理センターでご予約ください。 1. 窓口にて 2. 電　話　03-5245-7357（保健管理センター事務室） 3. メール　e-hoken@o.kaiyodai.ac.jp

本学の学生相談体制について



お知らせ

就職支援体制について

キャリア支援センターでは学生への支援として開催している「就職ガイダンス」、「企業説明会」及び「公務員試験対策講座」の実施、職業観の涵養を目的とした企業による業界セミナー及びエントリーシート添削・面接対策などの個別就職相談を更に充実させるとともに、学生の就職に対する意識の向上を促し、教学と学生支援の協働を緊密に行い進路支援体制の強化を図っています。

学部生対象のキャリア教育としては、インターンシップへの参加を意識させることにより、様々な形での社会からのニーズに触れ、学生が自分のキャリアデザインに資する機会を設けています。学部で開講する「キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」の科目は、キャリア開発に関する講義や産業界で活躍する人材をゲストスピーカーとして招くとともに、学部の特色に応じた社会的な情勢を学生に伝え、キャリア形成に向けた動機付けを高める内容となっています。

また、特に大学院生に特化したキャリア教育としてはキャリア相談等の支援体制を充実させ、特任教員によるキャリア開発に関する講義や企業や団体の第一線で活躍する方を講師に迎えて実施する「高度専門キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」の開講などにより、キャリア開発支援に取り組んでいます。

新求人票システム「海洋大キャリアナビ」をご利用ください。

国立科学博物館および国立美術館の利用について

本学は、「国立科学博物館　大学パートナーシップ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しております。

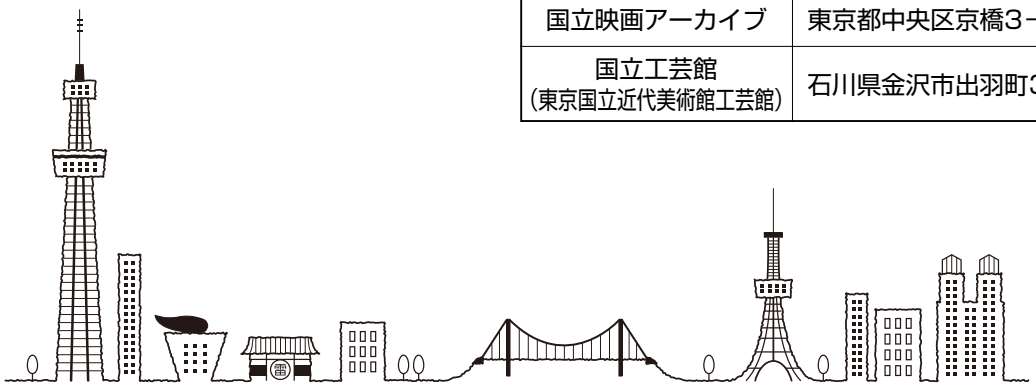
本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が無料で利用できるほか、特別展・企画展を割引料金で鑑賞できるなどの特典があるので、ぜひご利用ください。

◆国立科学博物館　大学パートナーシップ利用可能施設

施設名	住　所
国立科学博物館(上野本館)	東京都台東区上野公園7−20
附属自然教育園	東京都港区白金台5−21−5
筑波実験植物園	茨城県つくば市天久保4−1−1

◆国立美術館　キャンパスメンバーズ利用可能施設

施設名	住　所
東京国立近代美術館	東京都千代田区北の丸公園3−1
国立西洋美術館	東京都台東区上野公園7−7
国立新美術館	東京都港区六本木7−22−2
国立映画アーカイブ	東京都中央区京橋3−7−6
国立工芸館 (東京国立近代美術館工芸館)	石川県金沢市出羽町3-2



緊急時連絡システムについて
（さくら連絡網）

1. 緊急時連絡システムとは

本学のすべての学生・教職員と緊急時に連絡をとるためのメール・LINE・アプリによる配信システムです。

①台風・地震等の自然災害やインフルエンザ流行等による**緊急の休講等**を連絡します。

②**災害時の安否確認**や健康状態の収集手段としても使用します。

③その他、掲示板で告知するお知らせの中で緊急性があり重要と判断するお知らせ等の連絡をします。

2. 登録方法

携帯電話・スマートフォン等の携帯端末や自宅PC等の**複数のメールアドレス（4件まで）、LINE、アプリ**も登録できます。**必ず登録してください**。

3. 登録手順

（1）さくら連絡網登録用QRコードまたはURLにアクセスします。

QRコードはこちら →

URLはこちら → http://390390.jp

URLを直接入力した場合は、
認証コードの入力を求められます。
認証コード：204 441 4

（2）連絡を受け取りたい方法を**【LINE】**、**【アプリ】**、**【メール】**から選びます。（※ 3種類とも登録できます。）

（3）**【LINE】**を選んだ場合

①LINEの友だち追加ボタンから登録（追加）します。（トークから登録開始）

②認証コード：204 441 4 を入力します。

③IDとパスコードを入力します。

【アプリ】を選んだ場合

①さくら連絡網のアプリをインストールします。

②アプリを起動して、認証コード：204 441 4 を入力します。

③IDとパスコードを入力します。

【メール】を選んだ場合

①登録用メール送信画面に切り替わるので、そのまま送信します。（※メール本文は変更しないでください。）

②さくら連絡網からメールで登録用のURLが届きます。

③URLにアクセスして、登録画面からIDとパスコードを入力します。

（4）メニュー画面（以下、マイページといいます）が表示されたら登録完了です。

4.メール受信時の注意

①緊急時連絡システムでは、メール、LINE、を受信者が開封したかどうかの確認できるシステムです。
また、アンケート形式で安否確認を行う場合もあります。受信した場合は、必ず開封し、内容を確認した後、指示に従って回答してください。

②登録用メールが届かない場合は、ドメイン指定受信に「school-i.net」を追加登録してください。

③マイページ（https://390390.jp/parent/menu）をブックマーク（スマートフォンの場合はホーム画面に追加）しておくと、後日、メールアドレスの変更等を行う際に便利です。また、簡単ログイン設定をしておくと、次回からワンクリックでマイページにアクセスできます。

④配信先の変更を希望する場合やアドレス自体を変更した場合は、マイページのメニューの「連絡先を追加」から新しい連絡先を追加するとともに、「登録情報確認」から古い連絡先を削除してください。

⑤ログインID、パスコードは、各自で管理して下さい。（入学時に、学部生には大学メールアドレスに配信。大学院生、非正規生には紙で配付しています。）

⑥パスコードを紛失した場合は、以下の問合せ先へご連絡ください。

⑦緊急時連絡システムは、大学からの送信専用アドレスです。上記のアンケート形式での回答以外は、大学側では内容の確認ができませんのでご注意ください。

5.個人情報の取り扱いに関して

緊急時連絡システムにご登録いただいたメールアドレス等、個人情報に関しては本学個人情報保護規則に則り厳正な取扱いをいたします。また、上記の目的に限り使用し、他の目的で使用することはありません。

緊急時連絡システムに関する問合せ先：　総務部総務課　　so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp　　03-5463-0354

EMERGENCY CONTACT SYSTEM

“さくら連絡網 (SAKURA RENRAKUMOUREGISTRATION)”

What is the Emergency Contact System?

The purpose of this system is to contact students, professors and university staff members by email in the following cases:

1. to inform them when classes are suddenly canceled due to a natural disaster (typhoon, earthquake), a flu epidemic or other reasons
2. to gather information about the safety and health of university members after a disaster
3. to disseminate urgent and important information displayed on the university’s notice boards

How to register

Please register multiple mail addresses (up to Four) or LINE or other apps from mobile terminals such as mobile phones, smart phones, and home PCs in order to confirm sure and prompt correspondence from the university in an emergency. Please be sure to register.

Registration process

1. Access the QR code or URL for Sakura Renrakumou Registration.

QR code

URL
http://390390.jp

2. Choose the method by which you would like to receive information from the university: “LINE,” “app” or “Email.”
   * You can also register all three.

3. If you choose **“LINE”**,
   ① register (add) from LINE's Add Friends button. (i.e., start from the “Talk” page).
   ② input Authentication code: 204 441 4.
   ③ input ID and Passcode.

   If you choose **“app”**,
   ① Install the Sakura Renrakumou app.
   ② input Authentication code: 204 441 4.
   ③ input ID and Passcode.

   If you choose **“Email”**,
   ① the page moves to the sending registration mail screen; please send an email.
   *Please do not change the body of the mail.
   ② receive the registration email from Sakura Renrakumou.
   ③ access the URL and enter the ID and passcode on the registration screen.

4. Registration is completed when the menu screen is displayed.

Notes

- The system is configured to detect whether recipients have accessed their messages. It is also used to gather information about the safety of the registered community through questionnaires. When you receive it, please ensure that you open the message and reply according to the instructions.
- If you fail to receive the registration form after sending the registration email, please check your mobile phone’s spam filter settings. Add the domain name school-i.net to your list of authorized contacts.
- Add the system login page https://390390.jp/parent/login to your bookmarks to easily access your email and passcode settings.
- Manage your ID and passcode carefully, and make sure that you change your passcode after logging in for the first time.(ID and passcode is distributed at the time of enrollment)
- To change your delivery settings, register a new email address.
- If you forget your passcode, contact the responsible section using the contact details below.
- The system is a send-only address. The university cannot receive emails sent to this address

Privacy policy

Email addresses and other personal information registered on the system are strictly protected according to the university’s privacy policy. The system is used exclusively for the purposes stated above.

Contact

General Affairs Department, General Affairs Division
Email: so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp Tel: 03-5463-0354

重要! ネットワーク障害防止のための注意事項

キャンパス内で、ネットワーク停止が頻発しています。
研究室内の配線の点検をお願いします。

ループ状にケーブルを接続しない

ケーブルの両端をネットワーク機器に接続すると、出口のない通信パケットがネットワーク内で増大し、フロア全体や建屋全体が通信不能になるなどの重大な障害が引き起こされます。利用しないケーブルは機器から取り外してください。

古いハブ、壊れたLANケーブルを使用しない

古くなったプラスチック製のハブ(HUB、Switch)は、熱暴走等でフロア全体の通信障害の原因となることがあります。壊れた配線やコネクタの損傷も通信トラブルの原因になる場合があります。導入後の年数や破損状況などを確認し、適宜、買い替えましょう。

→**金属製ケースのハブがオススメ**です。放熱に優れ、安定して長く使えます。
詳しい型番などは下記窓口にお問い合わせください。

研究室内のルータの設定・接続を正しく行う

研究室で個別に設置したブロードバンドルータ、無線LANルータのDHCP機能の誤設定により、フロアや建屋全体での通信障害につながる場合があります。ネットワークケーブルが正しく接続されているかを点検してください。

→**「WAN」「LAN」を間違えると障害が発生します!**

古いOAタップの使用、定格電流を超えた使用や、タコ足配線は火災の原因になりますので、注意してください。

注意 PCは最新の状態にアップデートしてください

OSの脆弱性を狙ったウイルスによる情報漏えい被害が世界的に報告されています。利用しているOSやウイルス対策ソフトを常に最新の状態を保つようにしてください。私有のノートPCでも、大学配布のウイルス対策ソフトをインストールすることができますので、是非活用してください。

Windows XP、Vista、7、8、8.1、Mac OS X、macOSの古いバージョンは、メーカーサポートが終了しています。これらのOSをお使いの場合は速やかに最新のOSに更新してください。
現在利用可能なOSは、Windows 11、Windows 10、最新バージョンのmacOSです。

PC等を廃棄する際はデータの消去をしてください

廃棄するパソコン等からの情報流出を防ぐため、ハードディスク、SSD等の記録媒体の破壊装置、消去装置を利用してください。下記窓口にお持ちください。

情報システムに関する全学問合せ窓口

メール　ict-support@o.kaiyodai.ac.jp　内線 0446

附属図書館（品川）1階事務室内　（担当：全学ICTサポート）

大学配布ソフトウェアの入手方法 https://sites.google.com/site/kaiyonet2016/

Important!

Precautions for Preventing Network Failure

Network outages occur frequently on campus.
Check the wiring inside the research office.

Do not connect the cable in a loop (as in the picture.)

Connecting both ends of a cable to network equipment can cause serious obstacles. For example, communication packets without an exit increase within the network, making the entire floor or building unreachable. Remove unused cables from the equipment.

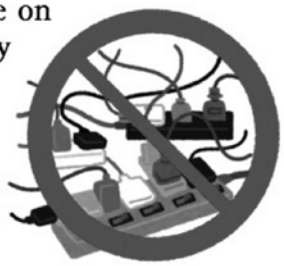
Do not use old hubs or broken LAN cables

An old plastic hub (HUB, Switch) may cause communication failure of the entire floor due to thermal runaway. Damaged wires and connector damage may also cause communication trouble. Check the years of use and state of damage and replace as necessary.

→ A hub with a metal case is recommended. It is stable, long-lasting, and provides excellent heat dissipation. For a detailed model number, contact the Inquiry Center given at the bottom of this page.

Set up and connect the router in the office correctly.

Misconfiguration of the DHCP function on the broadband router and wireless LAN router individually installed in the offices may lead to communication failure on the floor or the entire building. Check that the network cable is properly connected.



→If "WAN" and "LAN" are confused, network failure will result! Use of old OA taps, use exceeding the rated current, and use of power strips may cause fire. Beware.

Caution

Optimize your PC with the latest updates

Information leakage due to viruses targeting OS vulnerabilities is reported worldwide. Make sure that the operating system and antivirus software you are using are kept up to date. Even on a private notebook PC, you can install the university-distributed antivirus software. Take advantage of it by all means. Manufacturer support has ended for Windows XP, Vista, 7, 8, 8.1 Mac OS X, and old versions of mac OS. Update to the latest OS promptly if using these OS. The currently available OS are Windows 11, Windows 10, and the latest version of mac OS.

Delete data when discarding a PC, etc.

To prevent information leakage from discarded personal computers, etc., use data destruction and erasure devices for recording media such as hard disks and SSDs. Please bring them to the following counter:

Information System Inquiry Center

Email ict-support@o.kaiyodai.ac.jp Extension 0446

TUMSAT Library (Shinagawa) Office, first floor

To obtain University distribution software, contact: https://sites.google.com/site/kaiyonet2016/

悪質な就活商法に関する注意喚起

各大学で、学生に対して就職活動を支援するためのセミナー等を企画し、高額な参加費を徴収する団体による被害が発生しています。
なお、参加費が無料である場合も注意が必要です。そのセミナー等がカルト団体の勧誘窓口となっている場合があります。

本学においても、近年、そのような団体に入会して脱退する時に苦労した事例や、学内において強引な勧誘行為があったとの相談が寄せられた事例があります。

就活イベントの会場周辺では就活生の不安につけ込み、親しげに声をかけ就活商法の勧誘を行う者がおり、安易に氏名や携帯番号を教えている就活生も多いようです。

セミナー等の就活商法については、安易に個人情報を伝えることのないようご注意ください。国民生活センターによると、就活商法の被害相談は、毎年100件を超えているそうです。

「被害に遭った」「意に反して強引に勧誘された」等の場合、遠慮なく〔相談窓口〕へご相談ください。

（品　川）学生サービス課学生生活係
（越中島）越中島地区事務室学生支援係

東京海洋大学校友会のご案内

Q1.「東京海洋大学校友会」とは何ですか？

本学は、2017年4月の新学部設立を機に国内における唯一の海洋系総合大学として体制を強固にしました。今後、社会全体に強くその存在をアピールしていくため、2018年4月、全学的に「校友」同士の交流を活発化させ、本学の発展に寄与することを目的として、「東京海洋大学校友会」を発足しました。

Q2.「校友」とは誰ですか？

東京海洋大学および東京水産大学、東京商船大学等前身校の卒業生、在学生、在学生・卒業生の保護者、教職員の皆さまです。ホームカミングデーや各種イベントなど、「校友」限定の企画をし、「校友会ホームページ」や「校友会メルマガ」でご案内いたしますので、ぜひご参加ください。

Q3.「校友会ホームページ」とは何ですか？私もアカウントを貰えますか？

SNS機能、校友会メルマガ、公認課外活動団体ポータルサイトや会員限定動画サイトなど様々な機能を備えた「校友」限定ホームページです。「校友」の皆さまには個別アカウントを配布しております。**（登録及び会費は無料です。）**

海洋大の「今」が分かるコンテンツを少しずつ充実させています。令和４年度より試行的にインスタグラムも開始しました。ぜひ、実際に使ってみてください。

（校友会ホームページ QRコード）

【アカウント取得方法】

○在学生の方：大学メールアドレス（～@edu.kaiyodai.ac.jp）宛にID・パスワードを送付済みです。
不明な場合は、再送も可能ですので、お気軽に校友会事務局にお問合せください。

○卒業生・保護者の方：校友会ホームページの「新規登録」ボタンから、ぜひ申請をお願いいたします。
（校友会事務局で内容を確認後、ID・パスワードを送付します。）

★★★ご卒業を控えた方へ★★★

【重要】ご卒業後も引き続き利用いただけるようにするため、卒業前に「連絡用メールアドレス」の変更をお願いいたします。※初期設定の大学メールアドレスは、卒業後に使用できなくなります。
（ログイン後の画面「プロフィール設定」＞「プロフィールの編集」＞「連絡用メールアドレス」）

また、本学卒業生を支援する同窓組織として「楽水会」「海洋会」があります。
本学卒業生との強固なネットワークを築いておりますので、ぜひご加入ください。
楽水会：http://rakusui.or.jp/
海洋会：http://www.kaiyo-kai.com/

校友会に関する問合せ先：
東京海洋大学校友会事務局
電話番号：03-5463-4014
メールアドレス：koyukai@o.kaiyodai.ac.jp

掲　示　版

SNS、ツイッター、ブログ等の利用に関する注意事項

Facebookやツイッターに代表されるSNS（ソーシャルネットワークサービス）、あるいはブログなどを利用していると思いますが、インターネット上に書き込んだ内容は全世界に公開されることとなります。
転載・拡散された場合等には、長期間ネット上に残り、何らかのきっかけで問題となることがあります。SNSなどインターネットへの書き込み、写真や映像の掲載・投稿には十分注意し、個人情報は書き込まないようにしてください。
何か困ったことがあれば、周りの人に相談するようにしてください。SNS の公式サイトのヘルプや問合せ窓口なども参考にしてください。

闇バイトに注意

SNSに投稿されたアルバイト情報の中には、犯罪の手伝いをさせられるなど、危険なものも潜んでいます。怪しげな情報にだまされないよう注意してください。「#裏バイト」「#高額バイト」等のハッシュタグがいっぱい並ぶ投稿は、誰がどう見ても怪しく、雇用主や仕事内容の記載がなければ無視し、関心を持つのは危険です。好条件をエサに接触を待つ、勧誘目的で友達申請をする等、悪意の仕掛けはさまざまです。友人･知人が発信した情報でも、また聞きや再投稿の可能性があります。安易な連絡は絶対にやめてください。詐欺の受け子等は使い捨て、見つかって逮捕されることや、犯人グループとトラブルになるケースもあります。手っ取り早く稼ぎたい、スリルを味わいたいという気持ちで罪を犯すことのないよう十分注意してください。

薬物の乱用について

薬物の乱用は、本人の精神と身体に危害を及ぼします。また、友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく、社会全体に計り知れない影響をもたらします。このため、薬物の所持や使用は法律で禁止されており、違反者は厳罰に処せられます。
薬物に対して安易な気持ちや一時の興味で接することのないよう十分注意してください。

盗難に注意

下記の事項を守り、自己管理を徹底してください。

- 貴重品は、できる限り大学には持参しないでください。
- やむを得ず所持する場合は、各自でロッカーに鍵をかけて管理してください。
- 鍵は安易に解錠出来ないもの（ダイヤル式など）を選んでください。

悪質商法等に注意

消費者契約等に関するトラブルが増加しています。うまい話には要注意です。少しでも疑問を感じたら契約しないでください。また、身に覚えのない請求などは支払わないでください。
訪問販売や電話勧誘販売など、特定の取引の場合に、一定期間内ならば理由を問わず解約できるクーリング・オフ制度があります。もしも被害に遭ってしまったときは消費生活センターに相談してください。

カルト団体等の偽装勧誘に注意

キャンパス内において、自らが宗教団体であることを名乗ることなく、サークル活動や自主ゼミと称し、特定の反社会的なカルト団体に引き込もうとする「偽装勧誘」の事例があります。
声を掛けられておかしいなと感じた場合はキッパリと断り、安易に電話番号、メールアドレス等を交換しないでください。また、不審な団体と感じたとき、あるいは勧誘活動を受けた場合は、学生生活係、学生支援係まで知らせてください。

飲酒についての注意事項

（1）未成年者の飲酒は法律で禁止されています。
アルコールには麻酔作用があるので、未成年者が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を起こしやすいといわれています。もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。
（2）飲酒の強要は絶対にしないこと。
未成年者やお酒に弱い方にお酒を強要することは絶対にしないでください。
（3）飲酒運転は厳禁です。
「道路交通法」では飲酒運転のほか、飲酒者への車両の提供、運転者への酒類の提供、飲酒運転の車への同乗についても禁止されており、厳しい罰則が課せられます。

●編集/学生支援委員会(学生広報･修学支援調査小委員会)／佐々木剛(海洋生命科学部)／藤野俊和(海洋工学部)／
甘糟和男(海洋資源環境学部)／福岡美香(大学院海洋科学技術研究科)
●事務/学生サービス課　学生生活係　●表紙写真：越中島写真部撮影　タイトル：「新たなる道程」
●発行/東京海洋大学　TEL03(5463)0433　FAX03(5463)0437　ホームページ　https://www.kaiyodai.ac.jp/
『拓海』は環境に配慮し、リサイクルペーパーを使用しています。